

外アリテ日本豫備審査ノ擬賞原案ヲ認ラレナカツタモノハ多數アツタカ同時ニ又原案以上ニ優
 秀ノ賞位ヲカチ得タモノモ尠クナイ之ヲ擬賞成績ノ上ニ見テ二三ノ例ヲ舉ケレハ金工部ニ於ケ
 ル黒川義勝氏ノ無地打出シ壺、渡邊萬里氏ノ無地桔梗形花生、陶磁器ニ於ケル井本米泉氏ノ鐵軸花
 瓶、井上房太郎氏ノ傘立、漆工部ニ於ケル佐々木德齋氏ノ割竹卷簾入、染織部ニ於ケル龍村平藏氏ノ
 カーテン、湯淺專太郎氏ノ窓掛地、山鹿清華氏ノ壁掛其他ハ日本擬賞ノ原案トハ大ナル相違ヲ以テ
 優越ノ地位ヲ占メ之ニ反シ齋藤照一郎氏ノ象牙大鷲、錦光山宗兵衛氏ノ飾鉢、藪明山氏ノ花瓶、西村
 總左衛門氏ノ刺繡屏風其他原案ノ地位ヨリ落下シタルモノ尠カラステ著シキ齟齬カアツタ是
 等ハ全ク審査方針ノ相違ヨリ生シタル番狂セト見ルヘキモ又作品本位ニ見テ現代的美的觀念ノ
 差ヨリ來ル當然ノ結果トモイハネハナラヌ

以上ハ我カ出品カ國際審査會議ニ於テ世界的判決ニ基ク擬賞成績ノ實狀ニ就キ大要ヲ記述シタ
 ノテアルカ之ヲ以テモ工藝ノ現代の傾向カ如何ニ簡素單純ノ趣味ニ移リツツアルカヲ知ルニ足
 ルヘク徒ニ織巧緻密華美絢爛ノ如何ニ時好ニ遷レタルカヲ察スルニ足ラン之ヲ要スルニ優秀ノ
 賞位ヲカチ得サリシ我カ出品ノ大部分ハ技巧ニノミ重キヲ置キテ美ノ表現内容ノ現代的要求ニ
 全然無頓着ナリシ不用意ヨリ招キタル失敗ト見ルヘキモ又我カ出品カ殆ント一人一品ニ限ラレ
 タル爲ニ作家ノ十分ナル技術ヲ審判シ得サル不利益モ與ツテ大ナル因果ヲ爲シ列國委員モ判決
 ニ當惑スルト共ニ又同情スルモノモ尠クナカツタノテアル更ニ又經費ノ不足ヲ理由トシテ我カ
 出品ノ陳列展示ノ方法ニ十分ノ施設ヲ許ササリシ爲ニ工藝本質ノ實用的使命ト裝飾的價值ヲ能

ク表示シ能ハスコノ博覽會ハ特ニコノ陳列展示ノ方法ニ就キ詳細ノ注意ヲ以テ臨ミタル實際テ
 アツタ爲ニ我カ出品ノ多クハ擬賞上尠カラサル不利益ノ場所ニ置カレタトイフテモヨイ更ニ又
 我カ出品ハ內國用ノモノ多ク尠モ外國ノ需要ヲ考慮セサリシ如ク多數ノ國際審査委員ニ日本特
 殊ノ實際的用途及裝飾的價值ヲ十分ニ了解セシムル事ハ頗ル困難テアリ隨テ列國委員ノ興味ヲ
 ヒキ得サリシ事モ尠カラステ假令其製作ハ巧妙ナルモ用途ノ點ヨリ擬賞上不利益ノ立場ニア
 ツタ事ハ爭ハレナイ將來ノ博覽會ニ出品スル場合一層ノ考慮ト用意ヲ盡スヘキテアルト思フ
 我國出品ニ對スル所感大要斯ノ如シ而シテ吾人ノ最モ遺憾ニ堪ヘサルハ萬國博覽會ニ對スル我
 カ官民ハ其參加當初ニ於テハ頗ル熱誠ナルモ兎角オ祭騒キニ終リ之ニ依リテ得タル經驗ヲ將來
 ニ及ホスノ考慮意外ニ尠クシテ依然トシテ吳下ノ阿蒙タルノ憾ナキニ非ルカ宜シク其結果ヲ顧
 ミテ自重シ反省シ將來ノ對外政策上ニモ又産業經營ノ上ニモ利用シ社會ノ進運ト共ニ世界ノ文
 化的競争又國家經濟ノ發展上ニモ萬國博覽會參加ノ意義ヲ完フセン事ヲ切望スルノテアル

七 日本出品各部類主查概評

第一部 第一類 建築

(一) 類委員會ノ組織

類 長(佛 國)
 次 長(同)

エンマタエール、ポントルモリ氏
 オーグスト、ベレー氏

ケージスツ、ヂュルジュールウイツク氏

セジル氏

(波蘭)

報告者(佛國)

正委員 佛國四名、日本一名、藤田嗣治、白耳義二名、モナコ一名、ユーゴスラビー一名、希臘一名、波蘭二名、西班牙一名、チエツコスロヴァク一名、英國三名、奧地利二名、露國二名、和蘭一名、瑞典一名、伊太利一名、丁抹一名、計二十五名

副委員 佛國七名、日本一名、中村祥太郎、白耳義一名、丁抹一名、チエツコスロヴァク二名、波蘭一名、瑞典一名、和蘭一名、計十五名

(二) 各國受賞比較

國名	オールコ ンクール	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日 本	一	四	八	九	六	七	一	五三
佛 國	一	二	一	二	一	一	一	二二
英 國	一	一	一	一	一	一	一	二二
支 那	一	一	一	一	一	一	一	二二
白 耳 義	一	一	一	一	一	一	一	二二
露 國	一	一	一	一	一	一	一	二二
和 蘭	一	一	一	一	一	一	一	二二
波 蘭	一	一	一	一	一	一	一	二二
瑞 典	一	一	一	一	一	一	一	二二
伊 太 利	一	一	一	一	一	一	一	二二
希 臘	一	一	一	一	一	一	一	二二
合 計	二〇三	七八	八〇	一五七	一二三	一一三	六八	八二二

國名	オールコ ンクール	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日 本	一	四	八	九	六	七	一	五三
佛 國	一	二	一	二	一	一	一	二二
英 國	一	一	一	一	一	一	一	二二
支 那	一	一	一	一	一	一	一	二二
白 耳 義	一	一	一	一	一	一	一	二二
露 國	一	一	一	一	一	一	一	二二
和 蘭	一	一	一	一	一	一	一	二二
波 蘭	一	一	一	一	一	一	一	二二
瑞 典	一	一	一	一	一	一	一	二二
伊 太 利	一	一	一	一	一	一	一	二二
希 臘	一	一	一	一	一	一	一	二二
合 計	二〇三	七八	八〇	一五七	一二三	一一三	六八	八二二

(三) 出品概評(正委員藤田嗣治氏報告)

日本建築ノ美ハ周圍トノ調和ニ注意セサルヘカラス、然ルニ日本館ハ土臺モナク、倉モナク、竹藪モナク、松林モナク、小丘モナク、自然ノ風物ヲ背景トスルヲ得サリシタメ、外國館中ニ介在シテ多少ノ不利ヲ蒙リタルハ否ム能ハス、外國ニ於テ日本建築ヲナスニ當リテハ材料ノ運搬、工事ノ遂行等ニ於テ言フヘカラサル不便アルニ拘ラス、今回ハ總テ完全ニ一物ヲモ欠カサス整ヘテ運搬シ來リ、短日ニ之レヲ建設シ、最モ日本式ニ西洋ニ於テ嘗テ見タルコトナキ程度ニ於テ外人ニ紹介シタルコト

トハ外國人ヲシテ日本ト支那トヲ混同シ居ル點ヲ分明ナラシメタルノミナラス、一般ニ日本ニ對スル知識ヲ與ヘタルコト非常ナルモノナリ。
博覽會展覽會トシテノ意義上種々ノモノヲ一ニ集メテ總テノ趣味、總テノ技巧ヲ示シタルタメ不調和ノ點モ少ナカラスシテ、日本人間ニ多少非難スル者モ之レナキニアラサルモ日本建築ノ最モ美ナル點即チ白木作りノ優雅高尚ナル點ハ全ク他ト其ノ類ヲ異ニセリ。
各國ノ建築、各國館等ハ委員會ニ於テ審査セサルコトニ決シ、日本館ニ對シテハ「オールコンクール」ヲ授與セラレタリ。

府	縣	オールコンクール	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	四	四							四
計		四							四

第一部 第三類 木材工藝及同工業

(一) 類委員會ノ組織

類長(佛國)
次長(ユーゴスラビー)
同(佛國)
報告者(佛國)

アレキサンドルマルセル氏
イブラー氏
ブルジョウ氏
ルキフレル氏

(二) 各國受賞比較

正委員 佛國四名、日本一名(藤田嗣治)、チエツコスロヴァク一名、波蘭一名、伊太利一名、白耳義一名、英國一名、計十名
副委員 佛國七名、日本一名(中村祥太郎)、計八名

國名	オールコンクール	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日本	一三	一三	一九	九	二	二	八	九二
佛國								四
白地								一
伊太利								三
西班牙								三
波蘭								一
和蘭								二
瑞典								一
チエツコスロヴァク								二
ユーゴスロヴァキア								二
合計	一三	一九	一九	一七	二七	二六	八	二二九

(三) 出品概評(正委員藤田嗣治氏報告抄)

淺野吉次郎出品ノベニア天井板ニ付テ類長アレキサンドルマルセル氏嘗テ日本ニ來遊シタルコトアリト云フハ白木ノ合天井ハ日本ニテ屢々實見シタルコトアリ何等新シキ應用ニナラス大板ノ桐ニテ天井ヲ作り出シタルコトハ珍トスヘキモ當博覽會ハ珍ラシキ板ノ展覽會ニアラス殊ニベニアノ技術ハ西洋ノ發明ニシテ日本ハ之レヲ傳習シタルモノナリ故ニ本出品ニ對シテハ優賞ヲ擬スルヲ得スト主張シタルカ最後ノ決定ヲナスニ際シ小生ハ淺野氏ノ技術ノ優秀ナル點ヲ説明シテ遂ニ名譽賞ヲ授與スルコトニ決定シタルモノナリ。

山本瑞雲出品ノ欄間ハ圖柄平凡ニシテ出來モ惡ク白木作りノ家ニハ不調和ナリトノ批難アリタルモ最後ノ決定ニ於テ銀賞ヲ得タリ。

伊藤孝市出品ノ天井板モ特ニ賞スヘキ特徴ナキモ淺野氏ニ名譽賞ヲ擬シタル權衡上銀賞ヲ得タルナリ。

府	縣	大	賞	名譽賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
東京	知	府	縣	府	縣	府	縣	府	縣	府	縣	府	縣
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
三	一	二											

第二部 第八類 木材工藝及同工業

類 長(佛 國) グー マン 氏

次 長(同) ルー マン 氏
 同 (日本) 森 田 菊 次 郎 氏
 報告者(佛 國) ガブリエールボアンノ氏
 正 委 員 佛國四名、日本一名稻垣吉藏、瑞西一名チエツコスロヴァク一名白耳義三名瑞典一名伊太利二名、波蘭一名、英國二名、奧地利一名、和蘭一名、ユーゴスラビー一名、露國二名、丁抹一名、計二十二名
 副 委 員 佛國六名、日本一名青木利三郎、瑞典一名、白耳義一名、丁抹一名、伊太利一名、計十名

(二) 各國受賞ノ比較

日	佛	奧	白	支	丁	西	英	伊
本	西	利	義	那	抹	牙	利	太
三	二	二	二	四	一	一	一	一
九	三	一	一	一	一	一	一	一
二	二	一	一	一	一	一	一	一
三	二	一	一	一	一	一	一	一
五	二	一	一	一	一	一	一	一
七	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一	一	一	一
計	計	計	計	計	計	計	計	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一
八	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	一	一	一	一	一	一	一	一

モ	和	波	露	瑞	瑞	チエウ スロウ アキア	ヌー ゴース スロウ アキア	計
ナ	西	典	亞	蘭	蘭	西	典	
コ								
二	二	二	二	二	二	二	二	二
五								
三	一	二	四					二
二								
五	八	二	一	一				八
六	九	三	二	一				四
一	〇	四	二	四				一
四								二
七	二							一
四								四
五	三							
四	一	三	二	〇	七	六	一	五
三								九
								二

六〇

(三) 出品概評(正委員稻垣吉藏報告)

一 擬賞原案作成ノ方針

作品本位トス日本部事務長ノ説示並ニ内地ニ於テ擬賞セラレタルモノ及ヒ作家ノ履歴等ヲ参照シ日本擬賞原案ヲ作成セリ。内容作品本位ナレト、既ニ内外ニ於テ大賞名譽賞金賞等ヲ授與セラレタル者或ハ貿易業者又ハ實業家教育家等ノ國家ニ功勞アル出品者ニハ相當ノ賞ヲ授クヘキモノトセリ

二 國際審査ノ方針

現代ノ新藝術ヲ本位トス、商務大臣ノ訓示ニ依リ藝術ノ古則ニ依ラス、新ニ生レ出テタル意匠、構圖、模様、色彩ノ調和等總テ適切ニ裝飾美タルモノヲ採レルナリ。審査執行ニ際シテハ、概シテ大家各家

功勞者等ノ別ナク青年作家ノ物タリトモ、其技巧未熟ナリトモ或ハ一部分タリトモ、新機軸ヲ發揮セルモノ又ハ將來藝術界ニ有望ト認メタル作品ニハ(現代藝術ヲ美化セントスル參考ニ必要ト認メタルナランカ)相當ノ賞ヲ授ケラレタルナリ。

三 原案ト差異ヲ生シタル理由

日本原案ハ過去ト現在トヲ合シテ成リ、國際審査ハ現在ト未來ヲ採レルナリ、其差異又大ナリトス、此際當局ニ於テ純日本品ヲ撰出セラレタルハ最モ當ヲ得タルモノニシテ、若シ歐洲系統ノ物ヲ出陳シタランニハ如何ニ失敗セルヤ論ナシ、尤モ日本ノ古藝術ノ時代代表的作品ハ既ニ紹介セラレ當代人ノ熟知シ居ル處ナレト、其内幾分力洩レテ知ラレサル物アリ、其隠レタル藝術ノ殊ニ勝利ヲ得タルモノアリ、吾人カ古トセルモノ却テ新ト見、又内地ニ於テ新ト認メタルモノ却テ舊トナス、如此次第ニテ差異ヲ生シタルモノナリ。

四 大賞及名譽賞授賞ノ事由

前述ノ如ク現代ノ新藝術ヲ美化セントスル前途ニ有望ナル意匠、構圖、技巧、色調等ノ一部分タリトモ他ヨリ優秀ニシテ新味アルモノ順次ニ授賞セラレタルナリ

厨子棚

六角注多良氏出品

元、厨ニテ食物ヲ載セタルモノニテ其名アリ、後構圖ヲ改メ座右ニ招カレ、調度書畫等ヲ載ス棚物トシテ最モ進化セル形状ナリ、其單層ノ棚現代ニ適シ、蒔繪ハ從來ノ描線的手法ヲ脱シテ繪畫ノ筆法ヲ以テセル是亦現代ノ要求ニ應セリ、圖樣密ナレトモ餘裕アリテ通ラス、色調宜シキヲ得テ妙ナリ、

技巧共ニ宜シ、措ムラクハ盤ノ太ヤカニシテ古典的厨時代ヲ脱セサルハ如何。

屏風 青山泰石氏出品

圖樣弱クシテ影ノ如クカナシ、其弱キ柔カキ毛筆寫生のナルカ故ニ、溫暖ノ氣ニ滿テリ、其影ノ如ク力ナキ軟カナルヲ以テ人接シ易キ感アリ、屏風トシテ最モ當ヲ得タルモノナリ、技巧配色共ニ宜シ、殊ニ毛筆畫風ハ現代ニ要求セラレツツアルヲ以テナリ、措ムラクハ裏模様無クモカナ、蜘蛛ハ當地人ノ尤モ忌嫌ナモノナレハ室内裝飾品トシテハ心シテ用ユヘキナリ。

飾壺 赤塚自得氏出品

技巧ハ言ハス形狀金色共ニ論セス。

手箱 戸島光季氏出品

形狀古典ナレト優美ニシテ模様變化アリ、青貝ノ配置能ク金色ニ和ス、現代家具ノシブミアルモノニ配シタランニハ曉ノ明星トモ稱ス可キナリ、技巧優美ノモノト賞ス。

香棚ハ技巧ノミテ苦心セラレ構圖配色共ニ行詰リテ一見徳川末期代表品ト見受ケラルルモノナリ、如此作法ハ氣品アリテ雅致ニ富メルモノヲ渴望シツツアル現代ニ適セス、作者宜シク注意スヘキナリ、參考ノタメ附記ス。

裝飾棚 前田南齋氏出品

構圖複雜ナレト變化アリテ本地ノ色現代ニ適シ、蒔繪又純日本畫ニシテ配色能ク、全體ノ調和宜シキヲ得タルモノナリ、技巧共ニ賞ス。

御物盆、軸盆 大垣昌調氏出品

御物盆ハ梨子地ノ蒔方及模様ノ配置宜シキヲ得タルモノナリ、軸盆ノ圖樣又大膽ニシテ氣概アリテ快美トス、熟練ノ技巧能ク金色ヲ生カセリ。

手箱 三上治三郎氏出品

貝光漆色ニ和シテ柔カク圖樣變化ナケレト綠黑色ヲ配シタルハ引締リテ妙トス、婦人室ニ適スルモノナリ、技巧共ニ賞ス。

水盤 川之邊一朋氏出品

形狀重々シキハ水盤トシテ當ノ得タルモノナリ、四側面ノ色銀椽ニ和シテ優雅ナリ、技巧共ニ賞ス。

机 梶田惠氏出品

源ヲルイ十三世(約二百六十年前)ニ發シルイ十五世、ルイ十六世及ナポレオン時代ヲ經テ現代ニ至リ東洋趣味ヲ加ヘテ進化セル形狀現ニ博覽會出品中ニ數脚ヲ認ムル所ナリ、梶田氏ノ机ハルイ十五世式ヨリ生レ尙舊體ヲ脱セス、只其手細工ノ技巧新藝術ノ前途ニ有望ト認メタルナリ。

鏡ノ椽 豐川揚溪氏出品

構圖鏡ヲ主トセルナリ、圖樣波ニ鳥ノ線狀書キ不規則ニシテ筆意ニマカセタル趣キアリテ現代ニ適シ、地ハ一面變化ナケレト椽ニ規則正シキ紋樣ヲ配シタルハ働キアリテ雅トス、技巧共ニ賞ス。

料紙 硯箱 飯塚鳳齋氏出品

竹編ノ技巧日本獨特ノモノトス、更ニ髹漆蒔繪ヲ以テ裝飾セラレタル總テ手細工ニアラサレハ出

來得ルモノニアラス、其優雅ニ富メルヲ賞ス。

以上國際審査ニ於テ其持長ヲ撰出セラレタルモノナリ。

迎田秋悅氏出品ノ手箱ハ日本擬賞ニ於テ名譽賞ニ加ヘタルモノナレト、國際審査ニ於テ金牌ニ極リタル理由ヲ少シク説明セントス。

構圖ゴチツク式寶物箱ニ見馴タル形狀ニシテ、模様、色調又十八世紀ノ革張文庫ニ類似セルニ依ル、其技巧ハ口島氏ノ手箱ニ勝ルトモ劣ルトモ認メス、然レトモ黄色ヲ主トセラレタルハ當地人ノ好マサル處ナリ、黄色ノ花ハ怒ノ意ヲ示ス、忌花ナレハ注意シテ用キラレタシ、必シモ黄色ヲ嫌フトハアラス、場合ニ依リテハ必要缺ク可カラサル第一ノ色ナレハナリ。

五 當局ニ對スル希望

佛國現代美術工藝ハ此度ノ博覽會ニ於テ略ホ形造ラレタレト、未タ完成セルモノニアラス、優雅ナ風情ニ親ミ深キ公衆ニ満足ヲ與フルマテハ、前途尙遠達ナリ、サレハ今回參同國ノ出品中ヨリ適當ノ意匠技巧等ヲ探リ得テ漸次美化セントスルハ言フマテモナク、國際審査ニ於テ明瞭ナリ、我國ノ出品モ又犠牲トナレルモノナリ、而シテ我授賞品何レヲ新藝術ト認メラレタルモノニアラス、又必ス用途ニ適スルモノニモアラス、我美術工藝ノ前途益々不安ノ情態ニアルニアラスヤ、然レトモ幸ニ博識賢明ナル當局ノ諸彦並ニ今回參加セラレタル工藝ノ諸大家此機ヲ利用シテ現今ノ歐洲藝術思潮ヲ十分ニ觀察セラレ、我美術工藝ノ前途ニ深く思慮セラレシ事ヲ信シテ疑ハサル處ナリ、サレハ一大革新モ期待サルヘキナリ、然レトモ現代ヲ代表スル新藝術ヲ作り出サンニハ是非トモ當

局ノ指導ニ依ラサレハ、統一的完成ハ覺東ナキモノト思考ス、此義恐レナカラ當局ニ於テ御熟慮アラシコトヲ希フ。

六 當業者ニ對スル注意

今回授賞セラレタル作品何レモ前途有望ノモノノミニ非ラス、或ハ意匠、或ハ技巧、或ハ圖樣等ニ於テ賞與セラレタルモノナレト、相當ノ賞ヲ得タル作品ト雖モ少シモ用途ニ適セサルモノアリ、又無賞ノモノタリトモ前途大ニ有望ノモノ少ナカラス、其理由ハ當局並ニ參加セラレタル藝術家諸氏ノ熟知セラレタル處ナレハ此ニ略シ、賞ニ依リテ勝敗席順ヲ争フカ如キコトナカラシム事ヲ乞フ。

七 結 論

漆器ハ兎ニ角日本カ世界第一ナリ、巴里ニ於テモ(ジ)ユナン氏初メ多クノ物好カ真似テ居ルカトテモ日本ノモノニハ及ハヌナリ、真似ル人カ多クナレハナルホト日本ノ漆器カ尊クナル譯ナリ、然シソレハ技巧ノミニ一點ニシテソノ物品ハ用途ニ適セス圖樣ハ古典ノモノト洋風ヲ加味セルモノヲ取除ケハ殘ルモノハ新意匠ナルカ、コノ新意匠ハ目鏡テ見テモ認メ兼ル程ナリ、次ニ木材工藝指物(漆器ノ素地)ナリ、日本人ノ手先ノ器用ナ事ハ當地機械ノ及フ處ニアラス、カク迄機械ニ發達シタ巴里ニ於テモ工藝品ハ手技ヲ尊重シ居レリ、故ニ決シテ日本ノ在來ノ技巧ヲ捨ツル可カラス、唯趣味ト用途ヲ能ク理解シテ大サ(寸法)ナトヲ注意シテ作ラサル可カラス、殊ニ圖樣ニ於テハ大ニ工夫ヲ要ス、現在ニ於テハ模様ヲ埋テ居ル十八世紀頃流行シタ様ナ複雑ナ物ヲ愛シタ時代テハナイ、サンプルナ氣品ノアルモノヲ賞賛ス、例ハ墨畫ノ一ト筆書キト云ツタ様ナモノ、ソレモ昔ノ文人畫其

儘テハ困ルカ多少圖案化シテ毛筆畫風ニ作レハヨイノテ、毛筆畫ノ筆意ナトハ現代ノ工藝品ニ應
 用ヲ試ミントシツツアリテ前途大ニ望ヲ屬シ居レリ、又蒔繪ノ製作ニ於テ金銀ヲ湯水ノ如ク用キ
 ストモ漆ノ三色テモヤリ様ニ依ツテハ氣品ノアルモノノ出來ヌ事ハナカラウト思フ、コノ邊熟考
 セラレンコトヲ望ム、竹籠ハ技巧ニ於テ既ニ賞賛セラレテ居ルノテ形狀ヲ用途ニ適スル様ニ改メ
 竹ノ色ヲ物ニ應シテ使用スルコトトセハ國產トシテ有望第一ノモノトナラン、以上ハ第二部第八
 類ノ審査ニ關スル愚感ナリ、聊カ記シテ以テ結論トス。

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	都		三	五	三	五		三一
大阪	府				一	一		二
京都	府							
奈良	府							
和歌山	府							
滋賀	府							
靜岡	府							
新瀉	府							
朝野	府							
計			三	五	三	五		三一

第二部 第八類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	都							
大阪	府							
京都	府							
奈良	府							
和歌山	府							
滋賀	府							
靜岡	府							
新瀉	府							
朝野	府							
合								
計								

第二部 第九類 小細工物類

(一) 類委員會ノ組織
 長(佛國)
 長(同)

バスター
 ガストン、ヴァイトン氏

次 長(土耳其)

報告者(佛國)

シエフイツク、ベール氏

六八

正 委員 佛國二名、日本一名、久我貞三郎、白耳義一名、西班牙一名、露國一名、奧地利一名、英國一名、計八名

副 委員 佛國五名、日本一名、連水琢齋、白耳義一名、露國一名、計八名

(二) 各國受賞ノ比較

國名	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日本	四	四	八	七	四	一	二八
佛國	七	一	一	三〇	二	八	四九
奧地利	二	一	二	二	一	一	七
白耳義	一	一	二	二	一	一	五
西班牙	一	一	一	一	一	一	六
支那	一	一	一	一	一	一	六
英吉利	一	一	一	一	一	一	六
露國	一	一	一	一	一	一	六
瑞典	一	一	一	一	一	一	六
瑞西	一	一	一	一	一	一	六
チエツコ	一	一	一	一	一	一	六
オーストリア	一	一	一	一	一	一	六
合 計	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一

土耳其	計
九	一一
一七	一一
三三	一一
五七	一一
五二	一一
三八	一一
一五	一一
二二	一一
二一	一一

(三) 出品概評(正委員久我貞三郎氏報告)

今回ノ國際博覽會ニ於テハ出品ヲ五大部門ニ總合シ之ヲ細別シテ三十七類トナセリ。其内本審査員ノ受持タルハ第二部家内裝飾品ニ屬スル第九類即チ置物類並ニ皮革製品等ニ關スルモノニシテ材料ヨリ云ヘハ漆器、象牙、鼈甲、貝製品、セルロイド、諸皮革等ニシテ用途ヨリ云ヘハ、置キ物、化粧用器、旅行用具、紙入れ、物入れ、手筒、喫煙具、刷子等ナリ。

此類ニ出品セルモノハ八十四ヶ國ニシテ出品者數合計約二百名アリ、而シテ各出品者ハ概ネ數點乃至數十點宛出品セルヲ以テ出品點數ハ之ニ數倍セリ、日本ハ漆器、象牙、鼈甲、最多ク、角、貝類、セルロイド、及皮革類之ニ次ク、支那ハ例ニヨリ、獨特ノ象牙細工ノ複雑ナル手間仕事モノヲ出シ、佛國ハ新形皮革製品、女持サツク等最多ク、象牙製旅行用具一切及新意匠ブラシ等ニ、巴里式ヲ發揮シ、其他、奧太利ノ皮革製品、ポーランド、チエツコノ一般的意匠何レモ著シキ特色アリ、注意ニ値ス、西班牙ノ部ニハ漆繪ニ優秀ナルモノアリ、英國ハ皮革製品、手筒等ヲ出品セルモ堅牢一式ニテ趣味少キヲ以テ本博覽會ノ趣意ニ適セルモノ少シ、白耳義ノ部ハ出品少ク又珍ラシキモノナシ、土耳其、佛領植民地等ニハ變リタルモノアレトモ單調無味ニ失ス。

審査ノ方法ハ出品各個ニ就キ評價セルモ賞ハ出品者ニ對シ一人一賞ノ主義ニ依レルヲ以テ自然

各自出品中ノ最上作ヲ以テ代表作ト見做シ授賞スル事トセリ。
 審査員ハ各國側ヨリ出品數ニ應シテ推薦セラレ合計十二名アリ。之ニ八名ノ副審査員ヲ加ヘ總勢二十名トシ一同打連レテ陳列場ヲ巡廻検査シ出品者ノ説明ヲモ許シ各人所持セル覺帖ニ一一採點記錄シ其日ノ終リニ審査員ノ採點ヲ合計平均シテ成績ヲ決定ス。但シ副審査員投票權ヲ有セス。審査員缺席ノ場合ニ之ニ代ツテ票決ス。尤モ日本側ハ出品數モ相當アレハ特ニ副審査員モ投票ニ加入スル事トセリ。如斯採點法ハ他ノ類ニハ見サルトコロニシテ本類ハ特ニ慎重ノ態度ヲトレルモノナリ。如斯スルコト數日ニシテ全審査ヲ終レリ。然ルニ審査員ト雖モ各趣味ヲ異ニスルヲ以テ採點必シモ一致セス。往々ニシテ其見解甚シク相違セルモノアリ。コレ等ニ就テハ最後ノ審査員會ニ於テ議論ヲ上下セル結果多少ノ修正ヲ加フル事トセリ。議論ハ自ラ區々ニ分レタリト雖モ今回ノ博覽會ノ趣意ハ其意匠 modern ニシテ decorative ナルヘキ事ヲ主眼トスル點ニ於テ一同意見一致シ從ツテ技巧ノ點ニ於テハ必シモ精巧ナラストスルモ意匠ノ清新ナルモノハ優勝シ。反之技巧如何ニ精密ナルモ舊時代ノ模倣ニ過キササルモノハ捨テテ顧ミラレサリシハ是非モナシ。
 如斯採點セル全體ノ結果ヨリ見レハ出品者約二百名中眞ニ大賞ニ値スルモノハ僅カニ兩三名ニ過キス。之ニ續クトコロノ五賞即チ名譽賞、金牌、銀牌、銅牌、褒狀等モ甚少ク無賞ニ落チタルモノ頗多シ。正直ニ云ヘハ實際夫レ丈ノ値打外ナカリシモノト見テ可ナラン。
 然レトモ今回授賞ニ關スル規則(省令)ニ依レハ大賞ハ全出品者(各國合計)ノ一割ヲ越フ可ラストアリ。從ツテソノ反對解釋ヨリ云ヘハ、一割迄ハ大賞ヲ與フルモ差支ナキ譯ナリ。サレハ可成出品者ニ

花ヲ持タセル趣意ヲ酌ミ差支ナキ範圍内ニテ賞數ヲ追加スル事トセリ。茲ニ日本品ノ如キハ他國ニ比ヘ様ナキモノ多ク從ツテ解釋次第ニテハ授賞ヲ増加スルモ差支ナキモノ多シ。是等ハ遠慮ナク主張シテ賞ヲ増ス事トセリ。只外人審査員中ニモ相當日本品ニ對シテ目ノ肥エタルモノアリ。舊時ノ模倣ハ最モ排斥セラレタリ。寧ロ太古ニ逆リテ意匠ノ單純無雜ナルヲ採リタルモノハ却テ珍重セラレタリ。

如斯按排シテ結局出品者總數約二百名ニ對シ大賞十五ヲ與フル事トシタルモ無賞ノ數ハ依然トシテ多シ。而シテ日本側ハ出品者二十八名中無審査賞一、及大賞四ヲ贏チ得タリ。其他ノ賞モ之ニ倣ヒ且銅牌以下ノモノ一モ無之。本類中他國ニ比シテ最上ノ成績ヲ見タリ。

本類審査ノ總成績表ニハ各委員署名シテ之ヲ上級委員ニ提出セリ。但此表ニハ點數ヲ附セス。單ニ賞ノ名稱ノミ附セリ。

日本品ノ優勝ナルハ成績表ニ依リ一目瞭然タルモ、他ノ一面ニハ又左ノ如キ批評アリ。更ニ警醒一番ノ努力ヲ要スヘシ。即今回ノ出品中ニハ技巧ニ失シ新工夫ナキモノアリ。二十年前ブラツセル博覽會ニ出品セル日本品ニ比シ如何程ノ進境ヲ示セリヤ？或ハ百年乃至三百年前ノ模倣又ハ支那舊品ノ Copy ニ過キササルカ如ク見ユルモノアリ。模倣ハタトヒ寫眞ノ如ク精巧ナリトモ勞多クシテ效少シ殊ニ今回ノ博覽會ノ標榜セル modern (最新)ノ趣意ニ添ハス最近ノ傾向ハ寧ロ煩瑣ヲ避ケ單純ヲ尊フモノニ非ルカ。單純ナル構想ニ生氣ヲ加ヘ線ト形トノ配合ヲ工夫シ、色彩ノ調和ヲ研究シ、シカモ敢テ奇ヲ街ハス日本ノ特色ヲ失ハサル様努ムル事肝要ナランカ。古來日本ニテハ刀ノ鑄、

草入ノネツケ、浮世繪等ニテ意匠ノ勝レタルモノアリ是等ヲ研究シ工夫按排シテ新時代ノ物品ニ
應用スルモ一法ナラン。

又實例ニ就イテ見ルニ龍甲板ハ組ミ合セ堅牢ニシテ申分ナキモ、白色部ト黑色部トノ配合ヲ今少
シ美術的ニシ、又描キ畫ノ意匠ノ撰ヒ方等ニハ申分ナキ能ハス、今少シク工夫セハ完全無缺ノモノ
トナラン。又高等刷子ノ如キモ毛ヲ植エルニ手植トセスシテ器械植トセル爲捕ヘ方區々ニシテ毛
ノ向一致セスコノ點モ注意ヲ要スルトコロナラン。皮革製品ノ形狀及材料モヤリ來リノ儘ニテハ
面白カラス形ヲ工夫シテ仕切り等ヲ便利ニシ折目ノトコロニ金屬又ハ刺繡ナトヲ交ヘ裝飾兼實
用向トシ保存ヲ強固ナラシムルモ一法ナラン。

又小間物、人形類ノ値段著シク高キノ感ヲ與ヘタルハ如何ナル理由アルニモセヨ日本品ヲ外國ノ
市場ニ紹介スル目的ニハ適セサルヘク巴里ノ滑稽雜誌ニハ「高イ人形ヲ買ハントセハ日本部ニ行
クヘシ、二十法位ノ人形ヲ三百法位ニ賣ツテキル」ナトトノ椰楡的言句ヲ並ヘアリ、又麻雀ヲ支那賣
店ニテハ上等品骨ト竹トヲ組合セ作レルモノ四百法位ナルニ日本部セルロイド製品ニハ千法ノ
定價附サレアリ、品質ハ暫ク措クトスルモコノ儘ニテハ價格上ニ於ケル競争ハ困難ナルヘシ。

第二部 第九類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	オールコ ンタール	一	二	一	五	四	一	一四

東京	都	一	一	一	一	一	一	一
大阪	府	一	一	一	一	一	一	一
長崎	縣	一	一	一	一	一	一	一
神戶	府	一	一	一	一	一	一	一
富山	縣	一	一	一	一	一	一	一
合計		四	四	四	八	七	四	二八

第二部 第十類 金屬工藝及同工業

一類委員會ノ組織

- 類長(佛國) ジョルヂユ、コンツノ氏
- 次長(同) ルブラン、バルブヂエンヌ氏
- 次長(瑞西) デユコンマン氏
- 報告者(佛國) アンドレ、ブーイレ氏
- 正委員 佛國四名、日本一名、津田信夫、伊太利二名、丁抹二名、西班牙一名、チエツコスヴァク
二名、瑞西一名、瑞典一名、英國二名、奧地利一名、和蘭一名、ユーゴースラビー一名、白耳義一名、計
二十名
- 副委員 佛國七名、日本二名(中島保美、赤松秀景)、丁抹二名、白耳義一名、瑞西一名、瑞典一名、計
十四名

(二) 各國受賞ノ比較

國名	オール ンクル コ	大 賞	名譽 賞	金 賞	銀 賞	銅 賞	褒 狀	計
日 本	三	三	二	四	一	二	〇	六
佛 國	三	五	八	九	二	七	四	五
奧 國	一	三	二	二	二	一	六	一
白 牙 利	一	一	六	二	七	二	四	一
丁 牙 抹	一	一	一	二	三	二	一	一
西 班 牙	一	一	一	二	三	二	一	一
英 國	一	一	一	二	三	二	一	一
伊 太 利	一	一	一	二	三	二	一	一
和 蘭	一	一	一	二	三	二	一	一
波 蘭	一	一	一	二	三	二	一	一
瑞 典	一	一	一	二	三	二	一	一
瑞 士	一	一	一	二	三	二	一	一
チエツ コスロ ヴアキ ア	一	一	一	二	三	二	一	一
合 計	四	六	一〇	一四	一九	一四	九	七八

(三) 出品概評(正委員津田信夫報告)

本類ハ金屬工藝及同工業ニシテ、應用ノ範圍頗ル廣キヲ以テ參加列國中出品セサルハナク、隨テ國際審査會議ニ於ケル擬賞獲得上ノ論争ハ甚シカツタ、本員ハ副査赤松秀景氏中島保美氏ト共ニ本

類ノ審査ニ從事シ、日本出品八十七人中、大賞以下六十九即チ出品人員ニ對シ約八割ノ受賞成績ヲ舉ケ得タルハ、我カ金屬工藝優秀ノ徵表トシテ慶賀ニ堪ヘサル也、今當局ノ問題ニ依リ左ノ條項ヲ報告スルモノトス。

一 日本擬賞原案作成ノ方針

從來ノ萬國博覽會審査ノ慣例ニ依リ、當局ハ擬賞原案ヲ作成シテ國際審査會議ニ臨ムノ便利ナルヲ考ヘ、日本出品ノ各部ニ涉リテ審査豫備會議ヲ開キタリ、而シテ又當局ノ希望トシテハ日本ノ國狀ニ見テ作家ノ地位名聲又製造商社ノ經歷勢力等ヲ考慮スヘキ事ヲ提案サレタノテアル、然ルニコノ博覽會ノ主意及審査規則トハ大ニ抵觸スル所カアリ、又コノ博覽會ハ普通一般ノモノト其性質ヲ異ニスルヲ以テ、本員ハ專ラ作品本位ニ見ルヘキ事ヲ主張シタルモ、一人ノ同意者ナキ爲ニ、全然當局ノ希望通りノ方針ヲ以テ日本擬賞原案ヲ作成スルノ止ムナキニ至レリ。

二 國際審査方針

國際審査方針ハ博覽會規則第四條及第十六條ニ明カナルノミナラス、審査會議開會前佛國商工大臣ハ特ニ反覆共主趣ヲ敷衍シ、嚴格ナルヘキヲ訓示シタ、已ニ總論ニ於テ述ヘタル如ク、コノ博覽會ハ佛蘭西裝飾美術家協會ヲ中堅トシテ開催シタルモノ故、同協會員カ凡テノ方面ニ於テ努力シ、國際審査ノ術ニ當リタルモ、皆同協會員テアツタ、而シテ各部長ハ全部佛國側ヨリ又副部長ノ多クモ佛國側ヨリ任命サレタルヲ以テ、當博覽會ノ審査ハ恰モ佛國年次ノサロンニ於ケル鑑査ト同様ニ取扱ハレタノモ、自然ノ勢トイハネハナラヌカ、特ニ當博覽會ノ標榜セル現代的傾向ヲ審査標準ト

シ、作品本位ニ見テ作家商社ノ地位名聲等ヲ顧慮セサル事ヲ審査方針トシテ、嚴格ニ論議サレタ事ハ、恐ク萬國博覽會ニ於テ從來餘リ其例ヲ見ナイ事テアロウ。

三 原案ト差異ヲ生シタル理由

日本擬賞原案ト國際審査擬賞案ト大ナル齟齬相違ヲ生シタル理由ハ、一ニ其審査方針ノ根本ヨリ來ル當然ノ結果テアル事ハ前項ニ見テ已ニ明瞭テアルカ、深ク之ヲ考察スレハ作品其物ニ現ハレタル美的價值ト實際的用途トノ見解ニ少カラサル相違カアリ、又當博覽會ノ主張スル現代的傾向ノ標準ニモ多大ノ間隔カアツタ爲ニ、多數決ニ依ル國際審査ノ決定ハ日本原案ノ優賞ヲ排斥シテ或ハ低下シ或ハ落選セシメタカ、同時ニ原案ヨリ拔擢シテ優賞ヲ擬シタモノモ尠クナイノテアル。

四 大賞及名譽賞授賞ノ事由

本類ニ於テ優賞ヲ得タル品目及受賞者ノ主ナル者ハ

大賞	銀槌目無地打出壺	黒川義勝
同	七寶唐草寶石箱	稻葉七穂
同	七寶蜻蛉模様花瓶	安藤重兵衛
名譽賞	色繪銅鷺香爐	米澤弘安
同	銀無地打出花瓶	渡邊萬里

黒川氏ノ壺ハ其範ヲ陶磁製茶壺ニ取り、釉藥ノ「ナダレ」ヲ其儘應用槌起シタルモノニシテ、技巧ハ優秀ナルモ、敢テ嶄新ノ意匠ト認ムヘカラス、作家ノ經歷地位等ヲ考慮シテ日本擬賞原案ハ金賞ニ豫

選シタルモ、其簡素單純ノ趣好ハ現代歐洲ノ美的觀念ニ全ク能ク適合シタルト、又槌起工作ヲ至難ノ業トシテ技巧ノ方面ヨリモ最高位ニ擬賞セラレ、大ニ賞賛ヲ博シタルノテアル、作者恐クハ現代歐洲ノ好尚ヲ能ク觀察シ大ニ勝算ヲ期シタルニハ相違ナカルヘキモ、又茶壺ヲ知ラサル外國人ノ盲目ニ乘シテ獲得シタル偶然ノ名譽トモ見ルヘキテアル。

稻葉氏ノ寶石箱ハ意匠技巧及作家ノ經歷ヨリ當然優賞ニ値スヘク、原案ハ名譽賞ニ擬シタルモ、一進シテ大賞ヲ得タルハ當然ノ結果ト見テヨイ。

安藤氏ノ花瓶ハ日本原案ニ大賞ヲ擬シ、國際審査又同様ノ賞位ニ決定シ、偶然ノ一致ヲ見タルモ、授賞標準ノ根本ニ於テハ大ナル差異アリ、即チ日本原案ハ技巧ノ優秀ト作家ノ經歷ニ重キヲ置キタルモ、國際委員ハ其生地ニ黃金ヲ用ヒ特殊ノ地色ヲ表現シ、之ニ大模様ノ蜻蛉文様ヲ配置シタルハ從來ノ緻密一點張ノ七寶工藝ノ型ヲ脱シ、大ニ新様ト認メ審美的ニモ學理的ニモ之ヲ推奨シタルノテアル、若シコノ蜻蛉文様ノ寫生風ヲ改メテ能ク便化シ、更ニ猶單純化シタナラハ恐クハ最高賞ノ第一位ヲ占メタテアロウ。

米澤氏ノ色繪銅香爐ハ各種ノ色金ヲ用ヒ、工作上困難ナル其技巧ハ大ニ見ルヘキモ、意匠トシテハ更ニ嶄新ヲ認ムルヲ得ス、爲ニ日本原案ハ銀賞ニ擬セラレシモ、國際審査ニ於テ一躍シテ名譽賞ヲ得タルハ僥倖トモ見ルヘシ、是ニ其形式ノ寫生ヲ離レ、鷺自然ノ色彩等ヲ便化單純化シタル表現方法カ、現代的傾向ト一致シタルノテアル。

渡邊氏ノ銀花瓶ハ鍍金技巧トシテハ大ニ見ルヘキモ、其意匠形式等至ツテ平凡ナリ、日本原案ハ銀

賞ニ擬セラレタルカ、是又一躍シテ名譽賞ニ拔擢サレタル黒川氏米澤氏ト同様ノ心證ニ訴ヘテ獲得シタル偶然ノ勝利トモ見ルヘシ。

五 當局ニ對スル希望

已ニ述フルカ如ク、當博覽會ハ其種類ヲ限り特殊ノ性質タル裝飾美術工藝テアツタ爲ニ、審査會議モ從來ノ博覽會ト異リ格別嚴重ニ論議サレタルモ、結局萬國博覽會ナルモノハ國際的惣花主義ノモノテアリ、主催國トシテハ之ニ依リ自國ノ生産ヲ誇ルト共ニ、世界ノ各方面ヨリ參考資料ヲ取り入レテ自國將來ノ開發ニ利セントスルニ外ナラナイノテアル、從テ授賞數位爭奪ノ如キ徹底的ニ論争スルノ要ナク、一時的の外面的ノ勝利ヨリモ實質的利益ヲ將來ニ獲得スルノ必要アルハ申迄モナイ、當博覽會ニ於ケル日本出品ノ數字ニ現ハレタル受賞數位ヲ見テハ成績優秀テアリ國家ノ名譽トシテ祝福スヘキテアルカ、當博覽會ノ實際ニ見テ深ク考察スレハ、此ノ如キ外面的勝利一時的名譽ヲ以テ甘シスヘキニ非ス、大ニ自重シ大ニ反省スヘキ點多々アリテ、日本工藝ノ前途ニハ開拓スヘキ餘地十分アリト認ムルノテアル、當局ハ須クコノ博覽會ノ經驗ニ見テ當業者ヲ指導シ推獎スヘキハ大ニ獎勵シ、反省スヘキハ大ニ警告シテ將來ノ發展ニ資セサルヘカラス、由來萬國博覽會ニ對スル當局ノ處置ハ其當初ニ於テハ周到ノ用意ト懇切ナル輔導ヲ以テ直接當業者ニ臨ミ、出品勸誘ニハ萬遺漏ナキカ如シト雖モ、其終局ニ於テハ一片ノ受賞發表ニ止リ、直接當業者ニ對スル實質的報告指導ヲ缺クノ憾アリ、當業者又萬國博覽會ニ對スル考慮不徹底ニシテ、優賞ヲ得レハ當面ノ名譽ニ満足シテ速キ將來ヲ謀ラサルカ如ク、落選スルモ敢テ意ニ介セサル對岸ノ火事ニモ

似タリ、此ノ如クシテ萬國博覽會ニ臨ムノ效果シテ那邊ニ在ルヤ近時各國ノ工藝ニ對スル注意ト施設ノ深大ナル、社會政策ヤ經濟問題ト相俟テ教育指導保護獎勵至ラサルナク、隨テ萬國博覽會ニ於ケル世界の競争ノ結果ヲ眞摯ニ考察シ、只ニ一時的の名譽ノ受賞數位ノ爭奪ニ止ラス、實質的成績ヲ深ク監視シテ將來ニ備フルカ如シ、我カ官民亦心ヲ協セテコノ博覽會ノ結果ヲ將來經營ノ上ニ及ホシ、贊加ノ意義ヲ完フセン事ヲ希望シテ止マサル也。

萬國博覽會ハ一面ヨリ見レハ又正ニ文化的經濟的世界大戰ニ外ナラサレハ、其砲彈トモ見ルヘキ出品其物ノ優秀ナル實質ヲ緊要トスルハ勿論ナレトモ、又大ニ陣容ヲ張り威力ヲ示スノ要アリテ、即チ陳列展示ノ方法裝飾體裁ノ配置廣告宣傳ノ用意等策戰計畫ニ遺漏アルヘカラス、サレハ會場内ノ賣約又ハ販賣ノ一時的賣リ拔ケヲ以テ贊加經營ノ基礎トセス、將來ノ販路擴張ヲ大眼目トシ、最後ノ勝利ヲ期スルニ全力ヲ注カネハナラス、特ニ當博覽會ノ出品管理者ハ徒ニ賣約販賣ノ多寡ニノミ拘泥シテ將來ノ大計ヲ忘ルルカ如キモノアリタルヲ認ム、當局ハ須ク警告シテ今後ノ博覽會施設ニ大過ナカラン事ヲ期セサルヘカラス。

六 當業者ニ對スル注意

萬國博覽會ニ當面シテ工藝作家ノ最モ苦心スル所ハ其出品撰擇テアル、外國ノ事情ニ精通セス風俗習慣ヲ熟知セスシテ之ニ臨ムノ迷惑ハ、恰モ暗中摸索僥倖ヲ觀望スル者モ少クナイ、又多年ノ實驗經歷ヲ有スル製造輸出商社ハ勝算ヲ以テ的確恰當ノ出品ヲ爲スカ如キモ、時勢ハ推移シ好尚ハ變遷シテ柳下常ニ鱸魚住マサルヲ如何セン、當博覽會ノ審査成績ハ如實ニコノ間ノ消息ヲ物語ツ

テ居ルノテハアルマイカ、賞位必スシモ作品ノ眞價ヲ表象スルモノトハ斷言シ得ナイ、國家的立場ヲ背景トシテ各國名譽ノ爭奪戰ハ外交的手腕ヤ策略ニ左右サル事モ尠クナイ、サレトモ兎モ角モ參加二十餘國ヨリ撰出サレタル國際審査員ノ多數ニ據ル判決テアル、當業者正ニ大ニ刮目シテ其結果ヲ見コノ經驗ニ依リ深ク將來ニ備ヘサルヘカラス、已ニ述フルカ如ク現代世界工藝ノ大勢又各國ノ工藝ニ對スル施設及ヒ各國工藝ノ消長ト其國勢等ヲ考察スレハ、我カ工藝作家及製造商社等ハ緊揮一番大ニ奮起セネハナラヌ、我カ國家カ世界ノ強國トシテ活躍スルト同様ニ、我カ工藝ハ世界ニ活動セネハナラヌノテアル、徒ラナル鎖國的情趣ヲ捨テヨ、進ンテ各國工藝ノ長所ヲ取り、以テ我カ國粹美ニ培ヘ我カ工藝技巧ノ精ヲ併セテ、世界ニ臨マハ、各國工藝ヲ征服スルノ日モ遠クハアルマイ。

第二部 第十類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	東京	—	—	—	—	—	—	—
大阪	大阪	—	—	—	—	—	—	—
京都	京都	—	—	—	—	—	—	—
神戶	神戶	—	—	—	—	—	—	—
石川	石川	—	—	—	—	—	—	—
富山	富山	—	—	—	—	—	—	—
山形	山形	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—	—	—

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	東京	—	—	—	—	—	—	—
大阪	大阪	—	—	—	—	—	—	—
京都	京都	—	—	—	—	—	—	—
神戶	神戶	—	—	—	—	—	—	—
石川	石川	—	—	—	—	—	—	—
富山	富山	—	—	—	—	—	—	—
山形	山形	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—	—	—

第二部 第十一類 陶磁器工藝及同工業

(一) 類委員會ノ組織

- 類 長(佛國) チョルヂユ、ルアール氏
 次 長(同) フオーヂュロン氏
 次 長(丁抹) ウキルヘルム、ハンサン氏
 報告者(佛國) ルシエヴァリエ、シュヴィギヤール氏
 正 委員 佛國四名、日本一名(田邊孝次)、瑞西一名、伊太利一名、ユーゴスラビー一名、英國二名、露國二名、希臘一名、白耳義一名、西班牙一名、チエツコスロヴァク二名、澳地利一名、丁抹一名、和蘭一名、瑞典一名、計二十一名
 副 委員 佛國七名、日本二名(太田藤四郎、大木操)、瑞西一名、丁抹二名、瑞典一名、計十三名
 (二) 各國受賞ノ比較

國名	オールド シクル コ	大賞	名譽賞 金	賞 銀	賞 銅	賞 狀	計
日本	一〇	二	三	四	一	八	二六
佛蘭地	〇	四	一	三	三	三	一六
奧地利	二	一	七	一	一	一	九
白牙	二	七	一	一	一	一	六
西班牙	三	二	四	一	一	一	八
英吉利	三	二	一	一	一	一	四
希臘	三	二	一	一	一	一	三
意大利	一	二	一	一	一	一	二
伊太利	一	二	一	一	一	一	二
希臘	一	二	一	一	一	一	二
和蘭	一	一	一	一	一	一	三
波蘭	一	一	一	一	一	一	三
露西亞	一	二	一	一	一	一	三
瑞典	一	二	一	一	一	一	三
瑞西	一	二	一	一	一	一	三
捷克斯 羅夫 亞	一	二	一	一	一	一	三
土耳其	一	二	一	一	一	一	三
希臘	一	二	一	一	一	一	三
合計	一八	三一	五七	八五	一〇三	二八	三七二

(三) 出品概評(正委員田邊孝次氏報告)

一 原案作成ノ方針

原案作成ノ方針ニ就テハ、本員ハ副委員太田藤四郎氏及ヒ同大木操氏ト協議ノ上、素ヨリ本博覽會ノ目的ニ鑑ミ出品製作ノ優劣適否ヲ以テ主トス可キモ日本事務長ノ審査方針訓示ニ基キ、日本ニ於ケル斯界上ノ地位、其履歴及製産高等ヲ大ニ參酌シ、併セテ郷土の傳統上ノ技術及其精神並ニ地方分布上ノ價值ヲ比較研究シテ考慮ニ加エ、以テ日本側審査ノ原案ヲ作成シタリ。

二 國際審査ノ方針

國際審査ノ方針ニ就テハ、審査打合會ノ席上、類長ハ本博覽會開催ノ目的ニ鑑ミ、且ツ佛國商工大臣ノ審査訓示ニ基キ、「純現代的ノモノニシテ、舊式若クハ其偽作ニ係ルモノハ凡テ排斥ス」ノ主旨ニ依リテ、本審査ヲ嚴格公平ナラン事ヲ期スル旨ノ意見ヲ表示シ、參加二十一ヶ國ノ國際審査員ノ贊成ヲ得、速日此方針ニ依リテ、參加各國ノ出品ヲ逐一審議セリ。

此ノ審査方針ハ即チ佛國カ今回ノ博覽會開催ノ目的ト主旨トヲ如實ニ説明スルモノニシテ、佛國ハ本博覽會ニ於テ、

イ 戰後國力疲弊ノ際、外國人ヲ巴里ニ集中シテ國收ノ増加ヲ計リ、

ロ 歐洲大戰後ノ文化的所産ニ就テ列國ト競争シ、其覇ヲ握リ以テ産業立國ノ國是ヲ確定セン
トシ

ハ 産業政策上、其最モ最近進歩發達ヲ成シタル陶磁器及金工品ニ其主力ヲ置キ、陶磁器ノ輸出

向ノ品ニ在リテハ、セブル國立陶磁器製造所ノ製品ヲ標準トシ、趣味的ノ品トシテハ、最近巴里

ニ於ケル東洋磁器研究ノ結果ニ依ル新シキ雅致アル東洋風ノ磁器ヲ以テ其標準トシ、

此等數項ノ精神ヲ貫徹スル爲メニ、第十一類長ニアル、エデコラシオン主筆兼美術工藝品製造販賣會社ロアル社々長ヂョーヂ・ロアル氏ヲ据エ、副長ニセーブル國立陶磁器製造所技術部長ト、丁抹コトベンハーゲン國立陶磁器製造所長ヲ据エ、更ニ同趣味、同方針ノ佛國選出ノ審査員五名ヲ以テ、佛國案ノ主唱者ト成シ以テ外國審査員ニ應酬シタリ、列國審査員ハ悉ク專門家若クハ同様ニ理解アル鑑賞家のノ紳士ニシテ、大體ニ就テ主催側ト同意見ヲ有シタルカ、往々異說ヲ立ツル事アルモ、其說ヲ貫徹スル事能ハサリシ狀況ナリ、斯ノ如ク第十一類ノ審査方針ハ、最も適切ニ本會ノ主旨ニ副ヒ、且ツ其類長ハ、彼ノ意見ヲ遂行シ得可キ確實ナル組織ノ上ニ立脚シタリ。

三 原案ニ差異ヲ生シタル理由

前述ノ如ク原案作成ノ方針ト國際審査ノ方針トハ、殆ント根本的ニ根據ヲ異ニシタル爲メ、日本陶磁器審査ニ際シテハ、主催側ノ意見併ニ列國審査員ト日本審査員トノ間ニ意見ノ差異ヲ生シ、不幸ニモ度々激論スルノ止ムナキニ至リ、事務長ノ名ニ於テ再審査ヲ要求シ、説明者ヲ變更スル等ノ事ヲ成シタルモ、大勢ハ如何トモナスヲ得サリキ、今其原案ト差異ヲ生シタル主ナル理由ヲ考フルニ、

イ 純現代的ナル言葉ノ解釋方、

ロ 舊式ノ模寫又ハ其偽作ニ係ルモノナル言葉ノ解釋方、

ハ 陳列方法ニ就キ、一人一點出品ノ事ニツキ、

ニ 民族、歴史ノ異ナル工藝品ヲ同一ノ鑑賞眼ニテ律スル事ノ可否、

等ニ就キ、主催側ハ博覽會ノ主旨ヲ楮取リテ、純現代的、純獨創、多數生産同一鑑賞方法ヲ主張シ、日本側ハ他迄、西洋ノ現代、必スシモ日本ノ現代ニアラス、郷等ノ以テ模寫又ハ偽作ト成スモノ、日本ニ於テ必スシモ然ラス、日本ハ距離遠キト震災直後ノ製作ニ係ルヲ以テ同一作者ノモノ、多數出品シ難ク、況ンヤ民族國情ヲ異ニシタル東洋工藝ヲ西洋ノ同一律ヲ以テ律セラルルハ、苦痛トスル所ナリトテ相讓ラス、結局毎度、多數決ニテ主催側ノ意志ノ如ク遂行、國情論ハ部會ニ提出スル事ヲ保留シテ決定ノ止ムナキニ至レリ。

茲ニ一言附加ス可キハ、陶磁器部國際審査委員カ、我日本ニノミ嚴格公平ナルニハ非ス、參加二十二ヶ國同様ノ標準ヲ以テシタル事ナリ、日本ハ大賞モ二個受ケ、其他ノ賞モ多數ニアラサルモ、受領セリ、然ルニ小國四五ハ、出品全部ニ對シテ零ヲ評點シタルナト著シキ例トス可シ、然レトモ日本審査員ハ其結果ニ對シテ満足スル事能ハス直ニ類長ヲ通シテ授賞請求ヲ第二部ニ提出シタリ。

四 大賞及名譽賞授賞ノ事由

國際審査ノ方針ニ最も適當シタルハ、井本米泉氏ノ唐草文花瓶及黑耀釉唐草文花瓶ナリ、右ハ滿場一致ヲ以テ大賞ニ擬賞シタリ、然モ同氏出品ノ寶船インキ壺ハ零ナリキ、今授賞ノ事由ヲ略述スルニ、右ノ花瓶ハ何レモ其圖案ニ於テ嶄新ナルノミナラス、其唐草ハ頗ル便化セラレ在來ノ唐草文ト全ク其選ヲ異ニセリ、色調ハ鐵黑ノ一色ニシテ、表現ノ素朴宜ク近代佛國ノ傾向ト相一致シ、然モ釉藥調合ノ苦心見ル可キモノアリ、第二席宮川香山氏出品ノ香爐四點、花瓶一點ハ名譽賞ヲ擬セラレ

タルモ日本側委員ニ於テ更ニ本邦ノ代表的作家ナル事ヲ力説シテ、辛ウシテ大賞ノ班ニ連リタルモ、列國委員中不服ノ者多クアリ、爲メニ他ノ得點ニ影響ヲ生シタル位ナリキ。主催側ノ批評ハ、技術ノ老巧ハ充分認めラル可キモ、新意アル研究ニ乏シ、コレ喜ンテ大賞ヲ與ヘサル理由ナリト。

名譽賞ノ井上房太郎氏出品ノ傘立二個ハ、圖案ニ於テ古代支那ノ文様ヲ使用シタルモ、充分之ヲ咀嚼シテ、一見全ク新シキ獨創ノ圖案ヲ形成シ、高熱度燒成品トシテ良好ナル結果ヲ舉ケ、全體ノ調子、質朴ニシテ殆ント一色調ヲ以テ成リタル點、近代佛國ノ傾向ト相一致シ、全員賛成ヲ以テ名譽賞ヲ贈クルニ決シタリ。

茲ニ注意ス可キハ以上三者共、其出品ハ二個以上五個ニ及ヒ、同一作者ノ技量ヲ單一作品ニ就テ判定スルノ困難ナルヲ救ヒ得タル事ナリ。コノ事ハ本博覽會ノ授賞ニ關シ、大ナル影響ヲ一般ニ與ヘタルヲ知ルヲ要ス。

五 當局ニ對スル希望

今次ノ博覽會ニ於テ、各審査員力ヲ合セ心ヲ一ニシテ兎ニ角多數ノ賞ヲ得テ統計上優秀ナル結果ヲ齎シ、相當以上ノ效果ヲ舉ケタルカ、

イ 將來ノ博覽會ニ就イテハ、

1. 博覽會開催ノ主旨ヲ徹底的ニ調査シ、殊ニ開設地ノ狀況ニ鑑ミ、最モ適切ナル設備ト方法ヲ以テ臨ム可キ事、

2. 博覽會參加決定ノ上ハ、一省、一局、一課ノ事務トセス、日本帝國ノ爲メニ、廣ク天下ノ有識者ニ

謀リテ、公然協議ヲナス事、

3. 總テハ經費ノ問題ナルカ如キモ、實ハ運用ノ問題ナル可シ、

4. 結論ノ項御參照ヲ乞フ、

ロ 將來ノ出品ノ爲メニ、

今次ノ博覽會ニ於テ、工藝カ全ク美術ト同様ノ取扱ヲ受ケ、其多數産製者ト協力シテ美術ナル意匠ヲ安價ニ供給スル工業ト成ル其道程併ニ區別ハ、最モ明白ニ表示サレタリ、

將來ノ日本カ此種ノ博覽會出品及工藝ノ眞ノ保護獎勵及工業トノ連絡ハ、第一ニ意匠又ハ圖案ノ獎勵保護ニシテ、之ヲ具體的ニ言ヘハ、帝展ノ一科トシテ發達セシメ、其優秀ナル意匠ハ之ヲ商工法規意匠課ニ登録シテ意匠權ヲ與ヘ、其權利擁護法トシテ、商工省令トシテ意匠法ヲ制定シ、意匠裁判所ヲ設ケテ最後ノ査定ニ備ヘ、商工省主催産業工藝展覽會ニ於テ、優秀ナル意匠ニ依ル美術的工藝ノ多數製産ヲ獎勵シテ以テ輸出シ、外國製品ト競争シ得ルカ如ク成シ、所謂産業立國ノ基礎ヲ確保スル要アリ、想フニ將來ノ日本ハ現在ノ佛國ト趣ヲ同ウシ、民族的特技ノ工藝的産業ヲ以テ、世界ニ臨ムハ、最モ適當ニシテ又自然ナル方法ナリトス、

今ヤ日本ハ過去ノ粗惡アル輸出工藝ノ報酬ヲ受ケツツアルニアラサルナキヤ、

六 當業者ニ對スル注意

工藝界ノ潮流ハ常ニ固定シタルモノニアラス、常ニ時代思潮、最モ著シク美術ノ運動ト共ニ運動シツツアリ、日本ノ現在ニ於テ或ル一部ニ於テハ、新シキ工藝運動モアリツツト、未タ健全ナル指導者

ヲ得ス、從ツテ健全ナル發達ナシ、諸君ハ常ニ過去ノ萬國博覽會ヲ追想シテ出品ヲ試ム、今回ノ博覽會ニ於テハ諸君ノ出品カ劣レルト云フヨリモ、列國カ著シク進歩シタルト云フニ庶幾シ、諸君ハ新シキ研究ヨリモ間違ヒノナイ事ニ安全第一ヲ感シタル可シ、コレ沈滯也、沈滯ハ退歩ノ第一步也、コレ進歩セスト認定セラレタル所以也、其他、

イ 賞牌ハ必スシモ作品ノ價值ヲ表示セス、往々ニシテ外交的ニ受クル事アルカ故ナリ、高賞ニ安ンスル勿レ、

ロ 直接其地ニ赴イテ見聞シ、如實ニ自己ノ作品カ世界的舞臺ニ於ケル價值ヲ自覺スル必要アリ、

ハ 餘リ政府ニ依頼心ヲ起シ過キテハ不可、最早自分テ博覽會出品ヤ其設備位ヤツテハ如何、今回巴里否佛國人ハ政府ノ金ヲ少シモ目標トセス、悉ク自分等テ設備シタテハナイカ、

ニ 大製造所ニアリテハ、所内ニ圖案研究所ヲ開設スル事、

ホ 小數製作家ニアリテハ圖案ヨリ施軸、燒成迄、圖案家ヤ職工ニ任カセス、自カラ手ヲ下ス藝術的良心ヲ養培スル事、

ヘ 技術ノ未技ノ熟練ニ安ンセス、大局ノ效果ニ著眼シ、新時代、新日本ノ工藝ヲ創立スルノ意氣ヲ要ス、

七 結 論

想フニ工藝品ノ鑑賞ニ就テハ之ヲ大別シテ、精巧品ト雅致品ト二種トナス事ヲ得可シ、而シテ從來

東西兩洋ノ工藝品ヲ比較スル時ニ於テハ、歐米ノ工藝品ハ主トシテ精巧品ニ於テ勝レ、東洋殊ニ日本ノ工藝品ハ雅趣アル點ニ於テ特色アルモノノ如シ、我カ陶磁器ニ於テ殊ニ然リトス、彼ノ雅趣アル茶入カ一個今日尙十數萬圓ノ市價ヲ有スルカ如キハ其一例ナリ、

然ルニ明治初年以來歐米人ノ我國ニ來朝セルモノハ先ツ異國情趣ノ珍奇サヲ以テ日本獨特ノモノヲ喜ヒ、盛ニ購入シテ之ヲ歐米ニ致セリ、其購買振リヲ觀察スルニ、初メハ日本獨特ノモノノ中、比較的雅趣ニ富マサル繁縟濃厚ナルモノヲ購入シ、漸次日本趣味ヲ理解シテ、遂ニ清淡閑雅ナル趣ヲ愛スルニ至ル、然レトモ初メテ日本工藝ヲ喜フ人ハ大抵其趣味、繁縟濃厚ニ居レリ、茲ニ於テカ輸出向又ハ外人向キトモ稱ス可キ一種ノ型式出テ來タリ、商賈ハ技術家ニ指圖シテ、彼等ノ歡心ヲ得ンモノヲ製作セシムルニ至レリ、明治ノ中葉以後幾度ノ萬國博覽會ニ參加スル度毎ニ、其出品ノ大部分ハ、歐米人ノ趣味ノ迎合製作ナリキ、然モ從來ノ博覽會ノ授賞ハ概シテ作品本位ヨリモ作者本位ニシテ、屢々高賞ヲ受ケ、又其作品ハ未タ日本ヲ解セサル趣味低キ富有ナル人ニ購賣セララル事多カリキ、茲ニ於テカ、愈々商賈的ノ考ヘヨリ他ナキ商賈等ハ、歐米向キノ型式ヲ制定シ、外國博覽會ト云ハハ必ス此種ノ形式ニ依ル概念的製作ヲ出品スルノ風ヲ馴致シタリ、

然ルニ之ニ反シテ外國、殊ニ佛國ハ其工藝美術ハ、遠クルイ、キヤトルズ時代ニ於テ發達ノ頂點ニ對シ、殊ニ其濃厚繁縟ナル構圖ト色彩ハ世人ノ注意ヲ齎シタルニカカハラス、未タ新樣式出テス徒ラニ曲線ノ配列混合ヲ以テ裝飾美術ノ第一條件ト思惟シタリシカ、一九〇〇年ノ巴里萬國博覽會ニ於テ、此ノ趨勢ヲ挽回シ一新樣式ヲ制定ス可キナリトシ、當時ノ印象派等ノ畫界ノ運動ニ連關シ、曲

線ニ對スル反抗トシテ直線ノ運動起リ、繁縟濃厚ニ對スル反動トシテ、清淡質朴ヲ喜フニ至レリ。俗モ埃國ウインニ於テセツション式起リ、獨國又新工藝ノ運動ヲ起シ、一時セツションハ世界的流行ヲ來タセリ、更ニ千九百年以降、佛國ト東洋トノ關係ハ愈々密接ノ度ヲ加エ、其領土印度支那ハ、兵士ト產物トノ供給地トシテアフリカ以上ニ重要ナルモノトナリ、其印度支那研究ニ關シテ、印度及支那及日本ヲ研究スルノ必要ヲ生シ、度々ミツションヲ派シテ此等ノ國々ヲ研究セリ、就中シヤパレス教授ノ古代支那ノ美術工藝ノ研究ハ歐洲ノ學界ヲ刺激シ、爾來巴里ニ於テ東洋ノ博物館ニ三創設セラレ、東洋研究家熱非常ニ高昇セリ、即チ漆器ニ關シテハ人ヲ日本ニ求メ、巴里ニ於テ研究シ、陶磁器ニ於テハ專ラセーブル國立陶磁器研究所ニ於テ、多クノ實物標本ヲ其ミューゼセラミツクニ蒐集シ、古陶及新磁ニ關スル圖書ヲ其專屬ノ圖書館ニ收藏シ、日本古陶磁器ノ破片ヲ求メテ之ヲ定性、定量ノ精密ナル分析研究ヲ行ヒ、殊ニ其釉藥ニ關スル研究ハ驚ク可ク發達シタルコトハ、其復原的製作ニテ知ル可シ、歐洲ノ大戰ハ此等ノ東洋研究ニ一頓座ヲ與ヘタル觀アルモ、其後美術界ノ情勢ハ後期印象派ノ全盛トナリ、今ヤ繪畫ハ自然ノ模寫ノ如キ客觀的描寫ノ時代ヲ經過シテ、主觀的ニ物象ノ印象ヲ描出シ以テ、直接自然ノ生命ヲ捕捉スルヲ以テ繪畫ノ本義ナリトノ說最モ多ク行ハルルニ至レリ、即チ我日本畫殊ニ南畫ノ精神ト同一ノ理想ニ立脚セリ、サレハ工藝モ亦此風ニ從ヒ、從來ノ寫生的ニシテ繁縟ニ流レ易キ圖案ヲ排シ、主觀的ニシテ南畫味又ハ禪味アル圖樣色彩ヲ選ヒ形狀ノ素朴ヲ喜フノ風ヲ生セリ、然モ彼等八十數年ノ久シキ間、日本ヲ根本的ニ研究シタル事ナレハ例ヘ其モチーブニ於テ我ヲ模セリト思惟スルモ決シテ形狀色彩ノ未技ヲ模セス、其理

想併ニ精神ヲ取リタルナレハ、日本ノ純粹ナル模倣ノミト評價スル能ハス、全ク新シキ彼等特有ノ工藝トシテ現ハレタルナリ。

然ルニ我國ハ歐洲大戰ノ際モ地ノ理ヲ得テ漁夫ノ利ヲ占メテ以來、上下太平ニ慣レ、工藝ニ於テモ何等ノ新研究、新樣式ヲ創始スルニ至ラス、二十五年前ノ同一ノモチーブヲ繰返シテ、漫然トシテ此ノ堅固ナル新樣式ノ武備アル今回ノ博覽會ニ臨ム、吾人ハ今次ノ博覽會ニ於テ我國陶磁部カ他ノ列國ノ其部ニ比シテ、尙四大國ノ面目ヲ維持スルニ充分ナル授賞ヲ得タルモ、尙零ノ多キ、又日本ノ他ノ部ニ比較シテ著シク授賞數ノ少ナキハ寧ロ當然ニシテ、審査ノ局ニ當リタルモノノ努力ヤ、效ヲ奏シ、實質以上ノ賞ヲ得タルカ如キ事アリテハ光榮アル我國ノ陶磁界ノ前途ニ對シ甚タ相濟マサル次第ナルヲ考ヘテ恐縮シアルモノナリ。

第二部 第十一類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
京	都	一	一	四	三	三	一	一
愛	知							三
佐	賀							二
島	根							一
滋	賀							一
石	川							二
神	奈							五

山	計口	二	一	六	六	八	三	二六
合	計	二	一	六	六	八	三	二六

(二) 類委員會ノ組織
 第二部 第十三類 織維工藝及同工業

類長 エチエンヌ、フージエール氏
 次長 ボール、フオロ氏
 次長 ケー、チング氏
 報告者 エドアル、ラツソン氏
 正委員 佛國四名、日本一名、伴野文三郎、波蘭三名、土耳其一名、伊太利三名、瑞西一名、英國三名、露國一名、埃地利一名、西班牙一名、希臘二名、チエツコスロヴァク一名、瑞典二名、白耳義一名、丁抹一名、ユーゴスラビー一名、和蘭一名、計二十八名
 副委員 佛國六名、日本一名、佐々木綱雄、露國一名、チエツコスロヴァク一名、丁抹一名、埃地利一名、瑞典一名、波蘭一名、瑞西一名、計十四名

(二) 各國受賞ノ比較

日	國	名	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
五	本	オール、コ ンクール	五	八	一〇	五	五	五	三八

佛	地	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
白	耳	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
支	那	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
丁	抹	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
西	牙	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
英	利	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
希	臘	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
伊	太	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
和	蘭	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
波	蘭	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
露	亞	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
瑞	典	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
瑞	西	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
チエツコ	スロヴァキア	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
ユーゴ	スロヴァキア	義	利	西	埃	地	利	一	二	九
合	計	四〇	一	一	一	一	一	一	一	一

(三) 出品概評(正委員伴野文三郎氏報告抄)
 小生ノ擔任セル第十三類ニ於テ國際審査ノ結果カ、我擬賞原案ニ相違ヲ生シタル理由ハ我出品ノ

多クカ其意匠圖案ニ於テ十數年來何等ノ進歩ヲ見ストノ意見ニ依リ原案ヨリ下位ニ落サレタルモノアルニ由ル併シ小生ハ各品ニ對シ理由ノ附ケ得ラルル限り何レモ新規製作ニヨル旨ヲ極說セシタメ計ラヌモ豫期セサル大賞五個ヲ得タル次第ナリ而シテ各受賞ハ審査員ノ多數決ニ全然一任セシモノニテ審査員ノ心中感服セサルモノヲ無理ニ理屈ヲ附ケ若ハ強硬ニ議論シ大賞其他ニ漕付ケシモノハ一モナシ即チ最初ノ説明ニヨリ好感ヲ買ヒ後ハ全然多數決ニ一任シタルモノナリ。

當業者ニ對スル希望トシテハ若シ一輸出ヲ増加セントノコトナレハ絹産國トシテ世界一ノ名聲ヲ有スル日本トシテ今少シク何等カノ新規ナル計畫アリテ然ルヘシト考フ但シ小生ノ意見ハ純日本趣味ヲ捨テス而シテ歐米人ニ好マルル圖案及製作ニ苦心スルコトナリ勿論日本製造家ニシテ歐米ノ眞趣味ヲ解スルハ至難ノコトナリ小生ノ如キ織物ノ商業ニ從事スルコト二十五年滯佛二十一年ニシテ昨今漸ク佛人ノ趣味ヲ多少知り初メタルクライナリ昨年我實業界巨頭連ノ命ニ從ヒ輸出貿易ハ是非計リ吳レヨ佛國ニテ成功スレハ世界的ノモノトナラントノ意見ニ基キ桐生伊勢崎ノ組合又ハ織物業者ヲ説キ日本趣味ヲ捨テスシテ歐米人ノ嗜好ニ投スル如キ織物見本ヲ注文シタルニ其後約六ヶ月間小生日本滯在中如何ニ催促スルモ是レヲ履行セス漸ク最近ニ至リ普通日本婦人ノ愛用スル廣幅銘仙十數反ヲ送附シ來リテ平然タルニ至リテハ日本工業家ノ不熱心ナル驚クニ絶エタリ斯クテハ日本カ經濟上下ノ底ニ落ツル迄ハ今ノ輸入超過ヲ繼續スルヨリ外途ナカルヘシト痛感シタル次第ナリ。

尙ホ出品ノ織物ニテ平無地モノ其他麥稈眞田ノ如キモノハ今回ノ博覽會ノ趣旨ニ適セサルモノトシテ全然審査ヨリ除外セラレタリ。

第二部 第十三類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
東京	東京		八	一六	一一	一一	二	二二
京都	京都							二
大阪	大阪							三
神戶	神戶							一
滋賀	滋賀							一
福岡	福岡							三
三河	三河							二
岩手	岩手							二
茨城	茨城							一
佐賀	佐賀							一
合計		五	八	一〇	五	五	五	三八

第二部 第十四類 紙工藝及同工業

(一) 類委員會ノ組織

長(佛 國)

チャールズ・フォロ氏

意匠ニ於テ更ニ一段ノ工夫研究ヲ要スルモノト認ム、然ラサレハ到底外國製品ト相位スルコト難シ。

第二部 第十四類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
府	オールコ ンクール							
合	計	二	一	二	二	一	一	六

第二部 第十五類 書籍ニ關スル工藝及工業

(一) 類委員會ノ組織

類長(佛國) ルネ、バ、ス、シ、エ、氏
 次長(同) ルネ、キ、ー、フ、エ、ル、氏
 次長(瑞典) エリク、ウエルテルグレン氏
 報告者(佛國) レーモン、エスコリエ氏
 正委員 佛國四名、日本一名(中村倉太郎)、西班牙一名、伊太利一名、瑞西二名、希臘一名、波蘭二名、丁抹三名、白耳義一名、英國二名、ユーゴースラビー一名、和蘭一名、チエツコスロヴァク二名、露國二名、埃地利一名、計二十五名

副委員 佛國七名、日本一名、生田義人、露國一名、白耳義一名、英國一名、波蘭一名、丁抹二名、露國一名、瑞典一名、計十六名

(二) 各國受賞比較

國名	オール ンクール	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日 本	一		二	三	六	五	三	二五
佛 國	四		一	七	一	一	一	一五
埃 地 利	一		二	二	四		一	一〇
義 牙 抹	一		二	一	一		一	五
西 班 牙	一		一	一	一		一	四
英 國	二		五	一	四	四	一	一七
希 臘	一		一					二
伊 太 利	一		二	七			三	一三
波 蘭	一		一					二
瑞 典	三		一	四	三	四	一	一六
露 國	一		一	一	一		一	五
瑞 士	一		一	一	一		一	四
合 計	二一	二	一一	二七	一一	一五	一一	一〇四

チエツコスロヴァキア	二	五	一二	一一	一三	二一	一二	四六
ユイゴースロヴァキア	三	四	一	八	一	二	二	六
合計	三四	四八	五四	八六	一四	八六	五五	四七七

(三) 出品概評(正委員中村倉太郎氏報告)

各國審査員一同現品ニ就キ日本側委員ヨリ一々説明ヲ求メ各自審査規定ニ依リ採點ヲナシ審査會議ニ於ケル採決ヲ經タルモノトス。

一、審美書院ハ既ニ其製品ニ就キ定評アリ從來諸外國博覽會ニ於テ皆最高又ハ之ニ近キ賞牌ヲ獲得シ居タルニ不拘今回ノ出品甚タ拙ナルモノアリ日本側原案モ一ニ出品人ノ經歷ニ重ヲ置キ大賞ヲ請求シタルモノナルカ審査會ニ於ケル採決ノ結果名譽賞ニ落チタルヲ以テ日本部ハ審査除外ヲ申出テ其ノ承認ヲ得タリ。

一、渡邊庄三郎出品ハ注目ニ値スヘキモノニテ審美書院出品ヨリ遙カニ優良ナルモノナリ幸ヒ各國審査員ニ於テモ良ク其眞價ヲ認メ名譽賞ニ引上クルコトニ決定セリ以テ審査ノ公平ノ一端ヲ窺ハシムルモノト思惟ス。

本類ニ於ケル日本出品ハ木版畫ノミニ止マリ右ハ日本獨特ノ工業ニテモアリ今日迄ノ所他國ノ追從ヲ許ササルモノナリト雖今後モ日本木版印刷業者ハ一層研究ヲ深クシ常ニ精巧ナル作品製出ニ努力シ以テ歐米印刷業者ヲシテ追從ノ機ヲ與ヘサラシメンコトヲ希望スルモノトス。

第二部 第十五類 府縣別受賞表

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
府	オールコ							
東	京	一						一
大	阪							
合	計	一		一				三
								四一三

第二部 第十六類 娛樂用具玩具運動遊技具

(一) 類委員會ノ組織

- 類 長(佛 國) アンリールネ、ダルマーギニ氏
 次 長(同) シリル、ボンネ氏
 次 長(西班牙) カリヨスバチレ氏
 報告者(佛 國) フェルナン、グラシユイ氏
 正 委員 日本一名(森山隆介)、波蘭一名、英國一名、ユイゴースロヴァク一名、チエツコスラビ
 一二名、露國二名、伊太利一名、奧地利一名、希臘一名、計十一名
 副 委員 佛國三名、日本一名(山本光雄)、波蘭一名、計五名

(二) 各國受賞比較

日	國	名	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日	本	オールコ	一	一	二	四	三		一一

佛	奧	西	英	希	伊	莫	波	露	チエツコ	土	ユゴスラ	合
地	班	吉	太	利	亞	蘭	コ	利	亞	蘭	コ	計
六												六
												一七
												二二
												二八
												三六
												三七
												二七
												一七
												二二
												二二
												二九
												三三
												七
												一五
												三
												二
												二
												一
												六
												四

1011

(三) 出品概評(正委員森山隆介報告)

本類ニ於ケル本邦出品人ハ十一名ニシテ其出品ハ京人形五、博多人形六、雛人形二、木細工人形二、羽子板一組及麻雀一、合計十七點ナリ。
博覽會事務局ニ於テハ七月二十四日ヨリ類ノ審査ヲ始ムルコトニ決シタルニ付本類審査顧問商工省青木利三郎氏及東京美術學校彫刻科出身稻垣吉藏氏ト共ニ各出品物ヲ一々檢分シタル上農商務省ニ於テ豫メ作成セラレタル下檢査書トモ參考トシ本邦側擬賞案ヲ作り七月二十日本邦側

審査員總會ニ提出決定ヲ見タリ。

第十六類國際審査委員會ハ七月二十四日午後三時ヨリグランパレニ於テ其第一回登録ヲ開始セリ。

右第一回會議ニ於テハ今回ノ審査ハ博覽會審査規則ニ從ヒ出品人ノ社會上ノ地位、從來ノ受賞等ハ一切之レヲ考慮ニ入レス全然出品物其物ノ眞價ヲ見テ之レヲ行フ事ニ決シ、即日グランパレノ諸外國部ノ審査ヲ開始シタリ。

同日委員會カ日本部ノ審査ヲナスニ當リ本委員ハ本邦出品人ニ代リ各出品物ヲ指示シ作者ノ苦心ノ存スル處ヲ説明セルカ委員長始メ主トシテ佛國側委員ハ本邦出品物中木細工人形其他二三ヲ除キテハ玩具ト認ムヘキモノナク、京人形及博多人形ハ置物トシテ夫々ニ木製品陶磁器其他適當ノ類ニ變更シ可然ト主張シ、議論百出擬賞ニ關シ何等ノ決定ヲ見ルニ至ラス、仍テ佐々木事務長及青木顧問ト協議ノ上從來ノ前例ニ鑑ミ右人形類ハ當初類別セラレタル通り第十六類出品トシテ審査セシムル事ニ決シ、此種ノ人形ハ普通一般ノ置物ト其性質ヲ異ニシ、特ニ兒童ノ用ニ供セラレ爲メ製造セラレタルモノニシテ、從來内地博覽會及萬國博覽會ニ於テモ常ニ玩具ノ部ニ類別セラレ來リタル實例ヲ示シ、博覽會カタログニ記載セラレ居ル通り第十六類出品トシテ審査セラレ度旨ヲ同類委員長及報告委員ニ申送り其了解ヲ求メ置キ本委員ハ第二十類審査ノタメ諸外國部ノ審査ハ一切山本副委員ニ一任シ置ケリ。
山本副委員ハ爾來連日諸外國委員ト共ニ審査ニ從事シ七月三十一日佛國委員ヲ除ク諸國委員内

1011

ノ趣旨ニ合致セサルノミナラス、現ニ佛國側ニ於テハヴァイオリノ類ハ一切之レヲ受理セサル
 次第ニモアリ、右出品ノ審査ハ全然不可能ナリト主張シ、遂ニ審査除外トナレリ。

第三部 第二十類 衣服類

(一) 類委員會ノ組織

類 長(佛國) ジャンス、ランヴァン夫人
 次 長(同) クレマン氏
 次 長(瑞西) ネルビ氏
 報告者(佛國) コルビー氏
 正 委員 佛國四名、日本一名(森山隆介)、瑞西一名、白耳義二名、埃地利一名、チエツコスロヴァ
 ク一名、西班牙一名、露國一名、伊太利一名、瑞典一名、ユーゴスラビー一名、英國一名、計十六名
 副 委員 佛國七名、日本一名(山本光雄)、伊太利一名、白耳義一名、瑞西二名、計十二名

(二) 各國受賞比較

國	名	オール ンクル ル	大 賞	名譽 賞	金 賞	銀 賞	銅 賞	褒 狀	計
日	本	一六	二	二	五	七	三	一	二二
佛	本	一	二	二	二	一	三	一	九
埃	本	一	一	一	一	一	一	一	九
白	本	一	一	一	一	一	一	一	九
義	本	一	一	一	一	一	一	一	九
計		一七	二二	三九	七五	九七	四三	八一	三〇〇

(三) 出品概評(正委員森山隆介氏報告)

本邦側ヨリ本類ニ出品セラレタルモノハ着物、帶等合計十七點ニシテ其出品人ハ九名ナリ。
 右諸品ノ審査ニ當リテハ、本類ノ審査顧問タル商工省青木利三郎氏及東京美術學校出身ニシテ二
 十年來巴里ニ於テ美術ノ研究ニ從事シ居ラルル稻垣吉藏氏ノ意見ヲ徵シ、又農商務省ノ内審査書
 フモ参照シ、其擬賞案ヲ作成シ七月二十日日本邦審査員總會ニ附議決定セリ。
 國際審査委員會ハ七月二十四日グランパレニ於テ委員長スンヴァン夫人(佛國)議長ノ下ニ其第

支	西	英	希	伊	露	瑞	瑞	土	ユ	合
那	班	太	太	太	亞	典	典	耳	ゴ	計
牙	利	利	利	利	亞	典	典	耳	ゴ	計
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一七
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三九
二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	七五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	九七
二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	四三
五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	八一
三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	三〇〇

白	丁	西	英	希	伊	レ	ユ	モ	波	合
耳	牙	班	吉	太	ト	ク	リ	ナ	ス	計
義	抹	利	利	利	ア	ブル	グ	コ	ロ	ア
義	抹	利	利	利	ア	ブル	グ	コ	ロ	ア
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一六
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三七
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一一〇
三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一五四
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一一三
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四二
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五〇
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四

(三) 出品概評(正委員横山正幸報告)

一 委員會ノ組織

本委員會委員ノ顔振ハ別表ノ通りニテ、類長ハ當地第一流ノ「太デバートメントストア」ノ一タル「フランタン」ノ支配人「ラギョーネ」氏副委員長ハ佛、白、希ノ三國ヨリ各一名選定セラレ居リ、其他ノ各委員何レモ斯界ノ大家多ク報告委員「ド、フリーキエール」氏カ美術批評家ナルヲ除キテハ、本委員ノ如ク出品物ノ製造販賣ト全然無關係ナル業務ニ従事セルモノ一人モ無之コトハ注意ニ値ス、依テ本委員ハ最初適當ノ機會ニ於テ一同ニ對シ、本委員ハ諸君ト異リ全ク商賣違ナルモ諸君カ専門家ノ

見地ヨリ出品ヲ審査セラルルニ對シ本委員ハ寧ロ需要者タル一般公衆ノ見地ヨリ公平ナル批判ヲ試ムル心算ニ付含ミ置カレ度シト述ヘタルニ、類長ハ一同ニ代リ右陳述ヲ歡迎シ謝意ヲ述ヘタリ、依テ本委員ハ但シ本邦側出品物ニ付テハ専門家タル我副委員ノ意向ヲ斟酌シ諸君ノ質問ニ答フヘシト附言シ置ケリ。

二 委員會ノ審査

第一回ノ會合ニ於テ類長ヨリ審査規則ヲ朗讀ノ上公平ヲ宗トシ、且結果公表迄ハ絕對秘密ヲ守ルヘキコトヲ聲明シ、殊ニ審査ノ方針ニ關シ博覽會規則第四條ノ規定ヲ尊重シ且博覽會ノ趣旨ニ鑑ミ、審査ハ總テ出品物其ノモノノ出來具合如何ヲ主眼トシテ之ヲ行ヒ、出品人ノ從來ノ成績及各國ノ事情等ハ之ヲ考慮ニ入レサルコトヲ宣言セリ、次テ審査ノ方法トシテハ各委員會ニ依リ差異アルヘキモ、本委員會ニ於テハ先ツ委員一同ニテ各關係陳列場ヲ巡邏シ、出品物ヲ一々目擊調査ノ上各自ニ配布セル審査物品表ノ當該欄ニ各自ノ批評及採點ヲ記入シ、一巡後協議會ヲ開キ各自ノ採點ヲ集メ、平均點數ヲ作りテ委員會ノ意見ヲ決定スルコトト爲スニ一決セリ。

三 審査ノ實況

第二回會合以後ハ、前項ノ審査方法ニ從ヒ約一週間ニ亙リ順次各陳列場ヲ巡檢シ、其都度採點平均ヲ作りタルカ、佛國品ハ出品人及出品物ノ數外國部ノ夫レニ比シ數十倍モ多キト、同一種類ノ出品頗ル多ク、比較研究ニ時間ヲ要スル爲メ、先ツ外國部ヲ先ニシ、且陳列場ノ位置近キモノヨリ始ムルコトトセリ、從テ日本部ノ審査ハ一部分ハ第一着ニ行ハレ、他ノ一部ハ第六回目頃ニ行ハレタリ、其

ノ結果各委員ニ於テ前後兩回ノ分ヲ比較スルニ困難ヲ感シタルラシク、本委員ノ意見ヲ求メタル者多シ、且他ノ外國部ヲ見ル前ト見タル後トニテハ、各委員ノ心證ニ多少變化アリタル如ク、出品物ノ種類ニ依リテ利害ヲ異ニセルカ如シ、概シテ他國ニ類似品少キ物例ヘハ純日本式ノ傘、扇子ノ如キハ他ノ外國部トノ比較ニヨリ却ツテ利益セルモ、他國ニ類似品多キ物例ヘハ貝釦、ステッキノ如キハ不利ヲ蒙レルヤニ認メラル。

四 日本品審査ノ結果

前二項記載ノ如キ方法ニ依リテ行ハレタル國際審査ノ結果ハ、日本委員ノミニテ豫テ合議作製シ置ケル擬賞ト相違スルコト著シキモノアリ、之レ畢竟審査ノ標準目的及精神ニ於テ兩者間ニ多大ノ差異ヲ存シタルニ依ルモニシテ、今後此種ノ萬國博覽會ニ臨ムニ當リ、本邦當局ノ參考トシテ研究ニ値スルモノアリ、依ツテ先ツ兩者間ノ比較表ヲ掲ケムニ

種 類	本邦側豫定數	國際審査結果	兩者ノ比較
大 賞	二	一	一 減
名 譽 賞	一	五	四 増
金 牌	六	八	二 増
銀 牌	六	六	増減ナシ
銅 牌	八	五	三 減
褒 狀	五	三	二 減

右ノ表ニテ明ナルカ如ク、國際審査ノ結果ハ本邦委員ノ擬賞ニ比シ大體ニ於テ出品人ニ有利ニシテ、本邦側ニテ金賞トセルモノ二、銀トセルモノ一、銅トセルモノ一カ何レモ名譽賞ヲ得、銀トセルモノ二、銅トセルモノ三カ何レモ金牌ヲ得タルカ如キ、又名譽賞トセル勅使河原合資會社カ大賞ヲ得タルカ如キ其ノ例ノ顯著ナルモノトス、然レトモ實際ニハ本邦側ニテ大賞ヲ擬シタル榎原(扇子)中村(貝釦)方前者ハ名譽賞ニ、後者ハ金牌ニ下リ、金ヲ擬シタルモノ二カ銀ニ下リタル如キ不利ノ結果ヲ招ケルモノアリ、何故斯ル相違變動ヲ生シタルヤハ主要出品物ニ付テ一々研究ヲ要スト認ムルニ付、次項以下ニ於テ本委員會ノ擬賞理由並ニ本委員ノ之ニ關スル感想ヲ述ヘントス。

五 日本品擬賞理由

(イ) 勅使河原合資會社ノ日傘(大賞)

同社出品日傘ハ本邦側ニテハ名譽賞ヲ擬シ置ケリ、最初大賞ヲ求ムヘキ意嚮モアリタルカ、榎原(扇子)及中村(貝釦)ハ從來屢々大賞ヲ受ケ居ル先例モアリ是非之ニ大賞ヲ得セシメ度ク第二十一類二十八點中大賞三個ヲ要求スルハ至難ナリト認メ、名譽賞ニテ満足スル豫定ナリシナリ、而シテ審査ノ際各委員採點ノ平均ハ約十七點ニシテ規則通りニテハ名譽賞トナリ、大體本邦側豫定通りナルニ止マル形勢ニ在リタリ、然ルニ後述ノ如ク榎原、中村兩者ノ得點案外低ク、大賞ヲ受クルモノ一ツモナキニ至レルヲ以テ本委員ハ委員會ニ對シ、先ツ日本出品ニ對シ多數ノ名譽賞及金賞ヲ賦與セラルルハ頗ル感謝ニ堪エサル處ナルモ、二十八點ノ出品中一モ大賞ヲ與ヘラレサルハ遺憾ナリ、規則ニ從ヘハ大賞ハ出品數ノ十分ノ一迄テ之ヲ授與シ得ルモノナレハ、此際特ニ再考ノ上榎原、勅使

河原、中村ノ三者ニ大賞ヲ與ヘラレ度シト述ヘタルニ、類長ハ右ハ至極尤モノ申出ニ付、諸君ノ考慮ヲ求ムト云ヒ、現ニ名譽賞ヲ擬セルモノノ中ヨリ最高點者ヲ昇格セシメ度シト提議セリ、然ルニ右ノ名譽賞ヲ擬セラレタルモノヲ見ルニ、勅使河原以外ハ十五點乃至十六點ヲ得タルニ過キス、其ノ中何レヲ昇格セシムルモ不公平ヲ免レス、且他ノ外國出品ト比較スルモ到底大賞ノ値打無シトノ意見ニテ結局勅使河原丈ケ昇格セシムルニ決セリ。

尙勅使河原カ何故ニ最高點ヲ得タルヤヲ考察スルニ、夫ハ主トシテ同社出品ノ日傘數本中、竹骨ニ花模様ノ赤地絹ヲ張り象牙作工ノ柄ヲ附シタルモノカ特ニ注目ヲ惹キタル外、其ノ他ノ日傘モ從來ノ日本日傘ト多少趣味ヲ異ニシ、且西洋物トモ支那、印度邊ノモノトモ異レル新機軸ノ點アリタルニ依ル。

但シ右日傘ノ賣價頗ル高キニ過クト批難セル外國委員アリタルニ付、本委員ハ本邦一般物價最近著シク騰貴シ勞銀増加セルコト及此種日傘ハ所謂美術的贅澤品ニシテ機械的工業製品ニ非サルコトヲ以テ辯護シ置ケリ、又今回ノ授賞ハ主トシテ新規ノ意匠、現代的ノ趣向ヲ擬シテ出品ヲ爲セル製作者ニ對スルモノナルヲ以テ、何々製造會社ト云フ如キ團體ニ對シテハ授賞セサル方針ニテ他ノ外國部ニ付テ既ニ問題トナリタル例アリ、勅使河原合資會社トハ何者ナリヤノ質問出テタルカ、本委員ハ面倒ヲ避クル爲メ之レハ勅使河原氏個人經營ノ商店名ナルカ、賞與ハ同氏ニ授クヘキモノナリト説明シ置キタリ。

(ロ) 榛原直次郎ノ扇子(名譽賞)

本品ハ日本委員ノ見ル所ニテハ、兎ニ角大賞ノ價值アリト認メタルモ、外國委員ノ眼ニハ從來ノ同店作品ト大差ナク、所謂現代式意匠トシテ格別見ルニ足ルモノナシト認メラレタルカ如シ、而シテ他ノ外國部殊ニ伊太利及西班牙ノ如キハ各出品人ニ於テ夫々立派ナル飾棚ヲ設ケ硝子張りノ内ニ十本内外ノ扇面ヲ形態、色彩等ニ應シ美術的ニ陳列シ居リ、一見人ヲシテ恍惚タラシムルモノアルニ反シ、本邦側ハ出品人ノ數ニ比シ陳列場所頗ル狹隘ナリシ爲メ、共同ノ陳列棚ノ内ニ箱入りノ儘、單ニ羅列シアルニ過キサル爲メ、所謂第一印象ニ於テ既ニ不利ノ地位ニ立ツノ恐アリタリ、此點ハ本委員ニ於テ最モ遺憾トセル所ナリシモ、今更致方ナキニ付、日本ハ遠隔ノ土地ノコトトテ出品人自ラ陳列方法ヲ考研シ得サルコトヲ説明シ、一々木箱ヨリ取り出シ扇面ヲ開閉シ各委員ノ觀覽ニ供シ、且竹骨紙張ノ特色ヲ示シ、模様ノ嶄新ナルモノ等ヲ誇張シ置キタルカ、結局榛原出品モ藤田貞次郎、秋保鐵太郎等ノ出品ト全然同一視セララルニ至リ、大賞取付運動モ效ヲ奏スル能ハサリシ次第ナリ。

(ハ) 藤田貞次郎 扇子(名譽賞)

(ニ) 秋保鐵太郎 同(同)

本邦側ニテハ前者ニ金牌、後者ニ銀牌ヲ擬シタルモ、國際審査ノ結果ハ前記(ロ)ニ述ヘタル如ク榛原ト同價ト看做サルルニ至レリ、日本ノ扇子ハ紙張り、絹張り何レニセヨ特色アル爲メ、西洋各國ノ出品ニ比シ有利ナリシコト勿論ナルモ、概シテ本委員會委員ハ本邦ニ好意ヲ表シタルコト確カナリ、現ニ西班牙ノ如キハ前記ノ如キ實際立派ナル出品多カリシニ拘ラス、扇子ニテ名譽賞ハ僅ニ一點、

他ハ金銀賞ヲ得タルニ過キサレハ、本委員ノ意外トセル所ナリ。

(ホ) 藤井美一郎ノ貝釦(名譽賞)

本邦ヨリ貝釦ヲ出品セルモノハ中村、藤井、辻ノ三名ニシテ本邦側ニテハ中村大賞、藤井金賞、辻銀賞ノ豫定ナリシ處、之レ亦國際審査ノ結果ハ非常ノ相違ヲ生シタリ、貝釦ニ付テ問題トナリタルハ白耳義及佛蘭西ノ出品ニ係ル多數ノ釦類トノ權衡如何ノ點ヲ第一トス、本委員ハ先ツ日本出品ハ全部自然ノ貝殼ヲ材料トセルモノナレハ、他ノ化學的染料、セルロイド、護謨、粘土等ヲ用キタルモノト異リ、嶄新ノ意匠ヲ表ハスニ非常ノ苦心ヲ要スルコト、釦類ハ靴類カラ類ト等シク本來日用品ニシテ實際的の利便及安價、耐久力アルヲ重要視スヘキモノニテ、徒ニ裝飾本品ノ贅澤品ノミヲ獎勵スルハ工藝博覽會ノ趣旨ニ非サルヘシ、故ニ自然貝ヲ利用シ比較的嶄新美術的ナル釦ヲ格安ニ多量ニ製作シ得ル日本出品人ノ技術上ノ進歩ヲ看過セラレサルヤウ希望スト説明シタルカ、審査委員中ニ白耳義ニテ有名ナル釦製造業者一人アリタル爲メ、各國委員ハ自然同人ノ意向ヲ斟酌スル所アリ、其結果藤井ノ出品中額ノ中央部ニ在リタル大型ノ釦ニシテ長三角形ノ貝數片ヲ不規則ニ散シタルモノ、二個カ稍々嶄新ノ模様ナルモ、他ハ餘リ現代美術ノ見地ヨリ貴重視スヘキモノナシト云フ意見多ク、畢竟右二個ノ釦ヲ標準トシ藤井ニ名譽賞ヲ與フルニ決セリ、尙右ノ次第ニテ本委員カ極力辯護セルニ拘ラス中村ハ金、辻ハ銀ト決セリ、但シ之ヲ佛白ノ出品ニ比スレハ決シテ不利ノ待遇ヲ受ケタルモノニ非ス、彼等ノ出品カ何レモ前記扇子ニ付述ヘタルカ如ク各出品人毎ニ立派ナル飾棚ヲ設ケ種々ノ形態色彩ニ奇抜ナル工風ヲ凝ラシ、完全ナル電氣裝置ヲ設ケテ燦然タル陳列

方法ヲ用キタルニ拘ラス、又白耳義カ極力運動セルニ拘ラス、大賞ヲ得タルモノナキニ比スレハ、本邦側ハ寧ロ利益ヲ得タル程ト思ハル、之レ亦本邦カ遠隔ノ地ニ在リテ震災後ニ拘ラス、官民協同本博覽會ノ爲メニ無理シテ出品セル事情ヲ説明セルコト與ツテ力アリタリト認ム。

尙中村ノ出品ハ貝釦トシテ製法其ノ他立派ノモノト本委員等ハ認メタルモ、何分ニモ本博覽會カ單純ナル商工業本位ニ非スシテ現代式美術本位ナリシ爲メ、前記通り決定シタル次第ナリ、然シ博覽會ハ兎ニ角トシテ今後歐洲方面ニ益々本品ノ販路ヲ擴張セントスルニ當リテハ、製法ノ完成以外、意匠ノ改良ニ付テ一層ノ努力ヲ試ムル要アリト考ヘラル、殊ニ日本ニテハ釦類ハ男子洋服用以外ニ用途少キモ、歐米ニ於テハ婦人服ニ裝飾用トシテ使用セラルルコト多ク、此婦人服用ノ釦ハ結局色彩形態ノ現代式ニ奇抜ナルモノ歡迎セララルル傾向アルハ忘ルヘカラサル所ト思考サルニ付、當局ヨリ出品人ノ注意ヲ喚起セラレ度シ。

(ヘ) 讃岐傘同業組合ノ日傘(名譽賞)

本品ハ本邦委員ノ眼ニハ日本在來ノモノト異ラス格別ノ賞與ヲ要求スヘキ程ノモノニ非スト映シ居リ、從テ銅賞ヲ擬シ居タル處、意外ニモ國際審査ニテ採點ノ結果ハ平均十六點ニテ名譽賞ニ入レリ、理由ハ外國人ニ取リテ模様カ嶄新ナリシト値段カ割合ニ安キヤウ認メラレタルトニ在ルカ如シ、此邊ノ消息モ將來ノ爲ニ注意ヲ要スルモノト認ム。

(ト) 右以外ノ出品物

右以外ノモノニテ一應注意ニ値キスルハ(1)的場菜吉ノ鯨鬚ステツキカ日本側ニテ銀牌ヲ擬シタ

ルニ拘ラス、結局金牌ヲ得タルハ鯨鬚ナル稀シキ材料ヲ用キタルカ面白シト認メラレタル爲メナルト、(2)日本蛇族研究所ノ蛇皮製品カ材料奇抜ナル爲メ銀牌ヲ得タルモ各國委員中ニ本品ハ現代式裝飾品トシテ研究スレハ一層面白キ作工ヲ爲シ得ヘシト評シタルモノアルト、(3)横濱莫大小同業組合ノ靴下類ハ品質ハ優良ナルヘキモ美術的見地ヨリハ一向取ルニ足ルヘキモノナキ爲メ辛ウシテ銀牌ヲ取付ケ得タル等ノ事實ナルヘシ。

六 本委員ノ感想

本委員會ニ於テ審査セル衣服附屬品類ニ付テ見ルニ、本邦出品人ハ本博覽會ノ趣旨ヲ充分諒解セズ、所謂現代式美術的裝飾ヲ大眼目ト爲セルモノナルコトヲ知ラサリシモノト見エ、其ノ出品概シテ從來ノ意匠ヲ離レス、依然トシテ舊套ヲ脱セサルモノ多カリシハ遺憾ナリ、此感想ハ單ニ本委員會關係品ノミナラス本邦側出品全部ニ亘リテ本委員ノミナラス、他ノ本邦委員カ悉ク之ヲ懷ケル所ナリ。

尤モ右ノ現象ハ單ニ本邦ノミナラス佛國以外ノ諸國ニ付テモ之ヲ見ルヘク、例ヘハ白耳義委員ノ如キモ自國出品ニ付同様ノ感想ヲ述ヘ居タリ、本委員等ノ審査セル靴類ノ如キヲ見ルニ、佛國出品ハ何レモ材料及形態意匠ニ於テ新式奇抜ナルモノニ富ミ、單ニ婦人靴ノミナラス男子靴ニ於テモ確ニ新時代ノ要求ニ應シ新流行ノ魁ヲ爲サントスルモノ多キニ反シ、白耳義ノ出品ハ何レモ一見平凡ニテ唯タ品質優良、耐久力强キヲ誇ルニ足ルモノアルノミナリシ爲メ、本博覽會ノ趣旨ニ重キヲ置ク審査ノ結果ハ、兩者ノ間ニ著シキ差異ヲ生スルノ已ム無キニ至レルカ、實際ニハ佛國委員ノ

好意ニ依リ外國出品ニ付テハ幾分其ノ事情ヲ斟酌シ、審査標準ヲ幾分低メテ採點ノコトトシ、外國側ノ不平ヲ輕減セリ。

本邦品カ比較的優遇セラレタルハ、前記各品目ニ關スル特別ノ理由アル外、右ノ情狀酌量ニ依ル特別待遇ノ趣旨ニ基ケルコトハ忘ルヘカラサル所ニシテ、他ノ委員會ニ於テハ如斯キ待遇ヲ外國側ニ全然與ヘサリシ場合モアリ、他ノ類ニ屬スル本邦品カ第二十一類所屬本邦品ニ比シ不利ノ地位ニ立テルモノアルハ之レカ爲メナリ、從テ本委員會ニ依リ優遇セラレタル出品人ニハ、右ノ事情ヲ知悉セシメ、今回ノ授賞ニ満足シテ研究ノ步調ヲ緩ムルカ如キコトナク、今後一層努力ヲ重ね情狀酌量ヲ排シ、世界ノ市場ニ絶對的聲價ヲ高ムルヤウ當局ヨリ説明相成リ可然ヤニ思考セラル。

尙副委員速水琢齋氏カ行李匆々ノ際ニモ拘ラス、本委員ノ參考用トシテ提出セラレタル出品概評ハ、本委員ニ於テ必スシモ其ノ全部ニ亘リ全然同感ト云フヲ得サルモ、當局ニ於テ參考トセラルヘキ箇所モ多キヤウ認メラルルニ付、右概評其ノ儘添付ス。

出品概評(副委員速水琢齋氏提出)

扇子ハ日本特産品ニシテ、竹材及國紙絹等ハ全ク列國ノ工藝ヤ産業ト異リ純粹特産品ニシテ歐羅巴人非常ニ愛用シ、鼈甲象牙彫刻丁貝種々考案シタル優等ノ品モアリ、然シ鼈甲象牙高價ノ患ヒアリ、貝骨ハ扇子トシテ不適ニテ竹製品骨ハ日本扇子トシテハ價值アリ、圖案モ種々ノ刺繡ヲ施シ考案シタル今些シ嵩抵キ方ヲ能キカト思料ス、日本扇子ハ價ヒ安ク竹骨ハ質能ク紙ハ日本特種ノ國紙ヲ使用シテ大ニ聲價ヲ保テタレ共、却而高價材料ヲ用ヒタル爲ニ扇子ノ

聲價ヲ失フノ嫌ヒアリ、歐羅巴ハ酷暑ノ氣候ノナキ爲ニ出品ニ對シ非常ノ損アリ、貝釦ハ日本特種ノ加工技術ニ長シ、夜光貝ノ價ヒ高キ故ニ高瀬貝ヲ匠ニ應用シテ、釦ノ價格割安ニテ加工技術ノ優レタル爲ニ大ニ好評ヲ得ツツアリ、巴里ノ如キ裝飾用トシテ金屬ヤ變色貝寶石ヲ縷メ、誠ニ技術ノ優タル貝釦アリ、當事者ハ配合能キ考案ヲ施シ、加工ニ今些シ留意セラレタシ、黒丁金丁白丁貝製ノ釦ニ種々ノ色彩配合能ク擦合堀込ミテ加工シタル品ヲ考案サレタク思料ス。

日傘ハ日本竹製品トシテ歐羅巴ニ大ニ歡迎セラレ、現今巴里ニテモ東洋趣味非常ニ流行既ニ日本日傘ヲ種々模造シテ東洋趣味ノ圖案ヲ附シ、盛ニ製シ至ル所ノ小賣店ニテ鬻キ居リ實ニ粗惡ナル品ヲ擬シツツアリ、當業者ハ圖案等ハ現ニ巴里流行界モ東洋趣味ヲ行ヒツツアル故ニ今ハ日本竹國紙ヲ使用シテ價ノ安キ東洋趣味ノ圖案ヲ考案シテ巴里ノ流行界ヲ補ヒ得ル様ニ留意アリタシ、骨ハ良質ヲ選ヒ製作シテ今尠シ縮リ能ク骨ケスリモ留意アリタシ、團扇ハ國產品トシテ適度ヲ保チテ批評スル所ナシ、歐羅巴ニ酷暑ノ氣節尠クシテ實用少キモ流行界ノ所用品ニシテ世界ノ流行ノ魁ヲ示スノ權威アリ、然シ皮製品カ多ク日本趣味珍シク將來ハ日本特種ノ綾錦若シクハ趣珍織物ヲ應用シテ、巴里ノ流行界ノ猫目式ヲ參酌シテ、流行ノ粹ヲ製作スルニ勉メラルルヲ肝要トス、將來ハ大ニ望ヲ有ス、ステツキハ巴里ハ先進國丈ケアリテ非常ニ進歩シ握ニ金屬製品、象牙、龜甲、寶石類種々加工シタル品アリ、故ニ價モ非常ニ安ク、日本出品ハ製作考案幼稚ニシテ、隨テ價モ割高ノ觀アリ、今些

シ新趣好ヲ考案シテ市場ニ顯ルル様ニ製作サレタキト思料ス、眞珠ハ日本特產品ニシテ萬國ニ名聲轟キ大ニ聲價ヲ保チツツ在リ、然シ日本ニ於テ養植ノ術大ニ進歩シ、天然眞珠トノ識別鑑ミル不能觀アリ、然シ天然ハ得難ク養植ハ人工的ニ養植爲シ得ル爲ニ、天然ノ聲格ヲ傷ツケラルト雖、天然ハ尠ク價ヒモ高キ故ニ養植ノ聲格ヲ保チ國產品トシテ歐羅巴ニ於テハ非常ニ愛用シ歐羅巴ニテ殆ト擬眞珠ノ首飾ヲ爲ササル者ハ尠ク、益々植養ノ形容及光輝純白ニ産スル様ニ留意シテ益々好評ヲ博セラレン事ヲ希望ス、珊瑚首飾リハ意匠彫刻圖案等ハ伊太利ハ非常ニ進歩シ、實ニ奇々妙々ニ匠ニ彫刻ノ術優レ居レリ、然シ日本出品モ圖案彫刻ハ技術大ニ進ミ遜色ナキモ、現今ハ眞珠ノ流行ニテ流行界ニ適セサルカノ觀アリ、龜甲ピンハ歐羅巴ニテ戰後女子頭髮ヲ切り爲ニ向キ惡シク、出品首飾ハ歐羅巴ニテ硝子製品多キ爲、素人ニハ鑑別ノ力薄キ故、天然出品ハ隨テ非常ニ損ナル事ト信ス、

第三部 第二十一類 府縣別授賞表

府	縣	オールコ	大	賞	名譽賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
東京	京都													三
大阪	京都													六
神奈川	京都													三
長崎	京都													一
一一一														

府	縣	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
合	計							
臺灣	計							
府	縣							
台北	計							
基隆	計							
新竹	計							
台中	計							
台南	計							
高雄	計							
澎湖	計							
金門	計							
馬祖	計							
計								

第三部 第二十四類 寶石、金銀製細貨類

(二) 類委員會ノ組織

類 長(佛國) 長(佛國) 長(佛國)
 次 長(同) 長(同) 長(同)
 次 長(丁抹) 長(丁抹) 長(丁抹)
 報告者(佛國) 報告者(佛國) 報告者(佛國)
 正委員 佛國四名、日本一名(橫山正章)、瑞西一名、奧地利一名、英國一名、西班牙一名、白耳義一名、伊太利一名、計十一名
 副委員 佛國四名、日本一名(四谷正美)、奧地利一名、白耳義一名、瑞西一名、丁抹一名、計九名

(二) 各國受賞比較

日	國	名	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五

佛	奧	白	丁	西	英	伊	和	瑞	合
蘭	地	耳	牙	抹	利	利	利	利	計
西	義	牙	抹	利	利	利	利	利	計
九	一	一	一	一	一	一	一	一	九
一六	二	二	二	二	二	二	二	二	一六
一五	二	二	二	二	二	二	二	二	一五
二〇	四	三	一	一	一	一	一	一	二〇
一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一三
二三	二	二	二	二	二	二	二	二	二三
一一	一	一	一	一	一	一	一	一	一一
一〇七	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇七

(三) 出品概評(正委員橫山正章氏報告)

一 概 説

本委員會ノ審査品目ハ専ラ寶石金銀製細貨類ナル爲メ、各國委員ノ顔振ヲ見ルニ、委員長長タル佛國人「フリーケ」氏カ、巴里寶石街トシテ有名ナル「ロワイヤル」街ノ大寶石店主ナルヲ始メトシ、孰レモ斯界ノ名士ノミヲ網羅シ居リ、二十餘名ノ委員中門外漢ハ本委員僅ニ一名ナリシ爲メ、多少本邦側ノ爲ニ寂寞ノ感ヲ懷ケルカ、第二十一類委員會ニ對スル同様ノ態度ヲ以テ各國委員ト應答シ置ケリ。次ニ審査ノ方針及實況モ亦大體ニ於テ第二十一類委員會ト同一ナリシモ、實際ニハ外國側ニ對シ何等ノ斟酌ヲ爲サス、頗ル嚴密ニ容赦ナク苛酷ノ採點ヲ行ヒタル感アリ、其ノ結果本邦側出品ノ如

キハ最初ヨリ殆ト問題トナラサル如キ態度ニテ冷膽ナル審査ヲ受ケ、最初本邦委員間ニ豫測セル擬賞ニ比シ頗ル不利ナル決定ヲ受クルニ至レルハ、本委員ノ最モ遺憾トスル所ナリ、但シ本邦側出品ヲ個々ニ付考察スルニ、右ノ決定モ亦自ラ相當ノ理由ヲ存スルモノニシテ、之カ研究ハ將來ノ參考ト爲スニ足ルヘキヲ以テ以下各品目別ニ説明ヲ試ミムトス。

二 日本品擬賞ノ事情

(イ) 御木本幸吉ノ眞珠無賞

本品ニ付テハ本邦委員側ニ於テハ、其ノ特殊國産品トシテ名聲既ニ世界ニ高く、且御木本商店從來ノ成績夙ニ優良ナルニ鑑ミ、今回モ豫メ大賞ヲ擬賞シ居リタルカ、國際審査ニ當リ類長ハ本出品ヲ目シテ單ニ眞珠材料ヲ陳列シタルニ止マリ、本博覽會ノ趣旨タル現代式美術裝飾ノ見地ヨリスレハ全然無價値ナリト評シ、若シ強ヒテ授賞ヲ要スルトセハ、銅牌スラモ寛大ニ過キ辛シテ衰狀ヲ與ヘ得ルニ止マルヘシト斷言セリ。

元來佛國ニ於ケル御木本眞珠ノ輸入販賣ニ關シテハ、過去數年來當地寶石眞珠業者組合ノ猛烈ナル妨礙運動行ハレ居リ、殊ニ御木本ニ於テ最近殆ト天然眞珠ト異ラサル養殖眞珠ノ生産ヲ完成シテ以來、英佛兩國ニ於ケル該運動益々猖獗ヲ極メ、兩三年以來數回ノ訴訟沙汰ヲ惹起セル次第ハ、本邦當局及關係當事者ノ熟知セラルル通りナルヲ以テ、本委員ハ最初ヨリ本品審査ニ當リ必然大問題ヲ惹起スヘキヲ豫見シ居リタルモ、類長ヨリ前記ノ如キ冷酷ナル宣言ヲ劈頭第一ニ行フヘシトハ豫想シ居ラサリシ爲メ、憤懣ニ堪エサルモノアリタルカ、日本部審査開始早々激論ヲ試ミ各委員

ノ感情ヲ害サハ、他ノ出品ノ審査ニ當リ不利ヲ蒙ルヘシト考ヘ、兎ニ角其ノ場ニテ直ニ議論ヲ續クルヲ差控ヘタリ。

尙在巴里御木本眞珠代理店々主「ボール」ナル者ヨリ、日本事務局ニ對シ審査當日現場ニ立會ヒ、必要ナル説明ヲ試ミ度シトノ申出テアリタルヲ以テ之ヲ許容シタルモ、當日ハ本委員ヨリ類長ニ對シ同人ヲ參考人トシテ立會ハシムヘキコトヲ告ケタルニ委員長ハ他ノ委員ヲ顧ミ、右ハ全然不必要ノコトナラスヤ「ボール」ハ何事ヲ陳述スル積リナルヤ、余等ハ利害關係人ヲシテ審査ニ容喙セシムルヲ得ス、一々出品人ノ説明ナルヲ聞キ居リテハ到底埒明ク管ナシ、宜シク余等獨立ノ見解ニテ審査ヲ行フヘシト述ヘタリ、而シテ愈々現場ニ臨ムヤ、各委員出品臺ヲ圍繞セル所ニテ類長先ツ前記ノ如キ批評ヲ試ミ「ボール」カ種々説明ヲ爲サントスルヤ、類長ハ斯ル説明ハ不必要ナリトテ耳ヲ借ササルノミナラス、右手ヲ以テ同人ヲ押シ除ケ「此所ハ君等ノ出ル幕テナイ」ト許リ憲兵ヅクニ追放ヒタリ、而モ各委員ハ全然委員長ト同感ナルヲ示シ遠慮ナク他ノ出品ヲ審査シ始メ、御木本眞珠ヲ顧ミルモノナシ、思フニ佛國側委員ハ豫メ協議ノ上斯ル態度ニ出タル如ク本委員ハ全ク孤立ニ陥リ手モ足モ出ス閉口セリ。

次テ日本部ヲ終リ他館ヲ巡邏中「アレキサンドル」三世橋上ノ佛國商店出品陳列場ノ中ノ或ル陳列櫛ノ兩端ニ單ニ裝飾用トシテ一米突位ノ長キ眞珠ノ首飾ヲ無雜作ニ二個ノ椀ニ盛りタルモノヲ列ヘアルヲ發見シ、類長ハ他ノ委員ヲ顧ミ「斯ル品物ハ開會前ノ豫審委員會ニ於テ陳列ヲ許可シタル筈ナシ、御木本眞珠ハ外國部ナル故已ムナシトスルモ、苟クモ佛國人ノ出品中斯ル無價値ノモノ

アルハ許スヘカラス、正ニ規則違反ト認ムルニ付直ニ除去ヲ命スヘシト述ヘ、報告委員ニ對シ出品人へ右通告方至急取計ハレ度シト言ヒ、如何ニモ我方ニ對シ當付ケ蓋シキ態度ニ出テ本委員ハ頗ル不愉快ニ感シタルカ以テ佛國側委員カ如何ニ御木本眞珠攻撃ニ周到ノ用心ヲ爲シタルヤヲ知ルニ足ルト認メラルルニ付茲ニ之ヲ附記ス。

擬テ一巡後愈々協議會ヲ開キタルニ、採點ノ結果ハ日本出品物悉ク豫想外ニ不利ノ地位ニ立チタルヲ以テ、本委員ハ出來ル限リ辨難ヲ試ミタルモ、多數決ニ依ル審査ナルト各委員ハ殆ト一致シテ反對ナルトニ依リ到底一步モ譲ラス、殊ニ御木本眞珠ニ付テハ各委員ノ態度益々強硬ニテ結局泣キ寢入りノ已ム無キニ至レリ、然シ乍ラ本委員ハ兎ニ角、本博覽會ハ美術工藝博覽會ト稱シ單ニ現代式嶄新ノ模様意匠ヲ獎勵スヘキニ止マラス、之ニ必要ナル材料ノ生産ニ改良ヲ加ヘタルモノモ歡迎スヘキ筈ニシテ、御木本ノ如キハ所謂人造眞珠ト異リ本質上自然眞珠ト全然同一ナル眞珠ヲ養殖生産シ、從來徒ニ高價ナリシモノヲ比較的廉價ニテ供給シ、裝飾美術ノ發達ニ貢獻セルモノナレハ本邦委員ニ於テハ正ニ授賞ニ値キスト認メ、且從來數回ノ博覽會ニテ屢々大賞名譽賞ヲ受ケ居ルニ付、此際亦適當ナル賞典ヲ與ヘテ可然キニ非スヤトノ趣旨ヲ述ヘタルカ、類長ハ「本博覽會ハ從來ノモノト全ク趣旨ヲ異ニシ且出品人ノ經歷等ハ眼中ニ置カサル規則ニテ出品ソノモノカ現代式意匠ノ上ニ進歩ヲ示シタルモノ以外ニハ授賞シ得ス、又御木本眞珠カ美術裝飾ノ材料トシテ貴重ナリト云フナラハ、夫ハ寧ろ教育部ノ所管ニ屬スヘシ、本委員會トシテハ斯ル事情ハ一切考量ニ容ルルヲ得ス、單ニ裝飾品トシテ現代美術ノ見地ヨリ嶄新ト認ムヘキヤ否ヤヲ考察シテ授賞ス

ル外ナシ、此意味ニテ若シ御木本ニ何等ノ賞與ヲ擬スヘシトセハ巴里寶石商ニモ最初ヨリ此種ノ出品ヲ許可スルヲ要シタルヘク、彼等ノ此種出品アリタリトセハ何レモ美術的ニハ御木本以上ニ優良ナル故、誰ニモ彼ニモ大賞名譽賞ヲ與ヘサルヘカラサルヘシ、故ニ御木本ノ分ハ本委員會ノ管轄外ト看做シ審査セサルコトニスル方同店ノ爲メニ得策ナリト思考ス、蓋シ強テ審査ヲ求メラルレハ本委員會トシテハ、右ノ理由ニテ無賞又ハ喪狀位ニ決スル外ナカラムト極論シ、他ノ各委員同感ノ旨ヲ述ヘタリ、依テ本委員ハ此ノ上争フモ益ナク又喪狀一枚ナトハ同店ノ爲ニ却ツテ無キニ若カスト考ヘタルヲ以テ、然ラハ本件ハ一旦無審査ニ決シ置キ將來再審ヲ求ムルコトアルヘシト述ヘ議論ヲ打切りタリ。

其ノ後本委員ヨリ佐々木事務長宛ニ本件ニ關スル報告ヲ佛蘭西文ニテ提出シ同事務長ヨリ之ヲ參考トシテ添付シ第三部審査委員會ニ於ケル本邦利益代表者タル瑞西委員ニ對シ再審査要求書提出ヲ取次方依頼シ置キタルカ、同委員會ニ於テモ滿場一致ニテ原審確認ニ決シ、我要求ハ棄却セラレタル旨同委員ヨリ通告アリタリ、依テ其ノ後更ニ各部長會議ニ於テ佐々木事務長ヨリ第三審ノ本件審査ヲ以テ御木本ニ對シ特別賞授與ノ便法ヲ講セラレ度キ旨ヲ述ヘタルモ、規則以外ノ賞與ヲ與ヘ得ストノコトニテ之レ亦採用セラレス、茲ニ於テ我方努力ノ效ナク遂ニ本品ハ無審査無賞ニ確定セリ。

(ロ) 依田 忠 次郎 珊瑚 首飾 銅 賞
海老 原 章 次 裝 身 具 同 上

甲府水晶業組合	水晶首飾	同上
前川 佐一	龍甲ビシ	同上

右ノ四品ニ對シテハ各國委員ハ澁々ノ態ニテ銅賞ニ賛成セル程ニテ、本委員カ前二者ニ金賞、後二者ニ銀賞ヲ與ヘラレ度シト要求セルモ絶對ニ受付ケス、類長ハ此等ノ出品ハ若シ歐洲諸國殊ニ佛國ノ出品トセハ無賞若ハ褒狀位ノモノナルモ、折角日本ヨリノ出品ナルニ付好意的ニ考慮スヘキモ到底銀賞ノ價値ナシト云ヘリ。

實際上海老原ノ出品ノ如キハ御木本ノ出品ニ比シ何等優ル所無ク甲府組合ノ水晶首飾ノ如キモ同様ニシテ、外國委員カ御木本出品ニ對シテ執リタル態度ヲ徹底的ニ保持スルトセハ此等ノ出品カ無審査又ハ無賞タルヘキハ論理的當然ノ歸結タルヘキニ拘ラス、此等ニ對シ銅賞ニテモ與ヘタルハ其ノ間ニ非常ノ矛盾アリ之レ畢竟御木本ニ對スル商賣敵ノ根情ニ原因スヘシト推測スル外、其ノ間ノ消息ヲ解スヘキ何等ノ途ナシト考ヘラル。

(ハ) 島中珊瑚加工所	珊瑚製品	褒狀
菊地 茂兵衛	珊瑚ブローチ	同上

日本側ニテハ前者ニ銀賞、後者ニ銅賞ヲ最小限度トシテ思考スト述ヘタルモ、之レ亦前項同様ノ議論ニテ褒狀ニ決セリ。

(三) 江崎 榮造	龍甲瓜道具	無審査
大谷 貞二郎	龍甲ビシ	同上

大日本セルロイド株式会社 セルロイド、ピン 同上

日本側ニテハ前二者ニ銅賞、後者ニ名譽賞ヲ擬シ居タルモ、縷々上述セル通りノ意向ニテ委員會ハ頭トシテ無審査ヲ主張シ、本委員以外ニハ一人モ類長ニ對シ異議ヲ述ヘス、遂ニ其ノ通り決定セリ。殊ニ「セルロイドピン」ノ如キハ原料品トシテ審査スヘキモノニシテ美術的寶石細工ヲ主眼トスル本委員會ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非ストノ點ニ付テモ本委員トシテモ反駁ノ餘地ナカリシヲ以テ爭フヲ避ケタリ、但シ同社ハ別途適當ノ賞與ヲ得タリトノコトニ付以テ慰ムルニ足ルヘシ。

三 本委員ノ感想

第二十一類委員會ノ各委員カ事毎ニ本邦ニ好意ヲ示シタルニ反シ本委員會ハ類長以下悉ク前諸項ニ縷述ノ如ク頗ル冷酷ナル態度ヲ取レルハ本委員ノ頗ル不愉快ニ感シタル所ナリ。

乍然一度斯ル主觀的見地ヨリ超越シテ、客觀的ニ彼我ノ出品ヲ比較考察スル時ハ、實ハ本委員會所管出品ノ關スル限り、我方ニ非常ノ損色アリト認ムルコト極メテ公平ノ觀察ナリト云ハサルヘカラス、實際今回ノ博覽會ニ於テ一般公衆ノ注目ヲ集メ、全會場ヲ通シテ最モ賞讃ノ的トナリタルハ佛國寶玉貴金屬細工ノ陳列場ニシテ、所謂現代式嶄新ノ意匠ヲ凝シタル珍奇ノ出品ヲ羅列シ、光輝燦然視ル者ヲシテ茫然自失セシムルモノアリ、之レト比肩スヘク本邦出品ノ餘リニ貧弱ニシテ其ノ間ニ雲泥ノ差アリタルハ本邦委員一同ノ齊シク之ヲ是認セル所ナリ、惟フニ此ノ方面ニ於テ我當業者カ海外發展ヲ期待スル以上ハ歐米最近流行界ノ形勢、現代美術裝飾ノ傾向等ヲ遲滯無ク研究シ之ニ本邦獨特ノ新意匠ヲ加ヘテ製品ノ改良ニ努力スルヲ要スルハ申ス迄テモ無カルヘシ、此

點ニ關シ卑見ヲ詳述スルハ本報告ノ趣旨ニ非サルヲ以テ夫ハ將來ノ機會ニ讓リ茲ニ本稿ノ筆ヲ擱ク。

第三部 第二十四類 府縣別受賞表

府	縣		大	賞	名譽	賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
	府	縣													
東	京	府													
大	阪	府													
高	知	府													
合	計		一	一											

第四部 第二十七類 園 藝

(一) 類委員會ノ組織

- 類 長(佛 國) アベル、シヤテネー氏
 次 長(同) フェチナン、カイユ氏
 次 長(モナコ) モー、ヘル、氏
 報告者(佛 國) アンドレ、ペラ 氏
 正 委 員 佛國六名、白耳義一名、リュクサンブルク一名、計八名
 副 委 員 佛國四名、計四名

(二) 各國受賞比較

國	名	大	賞	名譽	賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
日	本	一	二											一七三
佛	蘭													一
佛	地													一
佛	義													一
白	耳													一
西	牙													一
英	利													一
リ	ヤ													一
モ	ナ													一
合	計	一	四	七	一	八	一	三	三	七	二	五	七	二〇四

(三) 出品概評

本類ニ屬スヘキ日本出品トシテハ唯日本館附屬ノ日本風庭園ヲ算スルニ過キス、故ニ我邦トシテハ之レニ對シ別ニ審査ノ請求ヲナササルコトニ決シ居タルニ同類委員會ハ右ニ對シ金賞ヲ授與スルニ決シタルハ寧ろ意外トスル所ナリ。

府	縣	大	賞	名譽	賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
東	京													
合	計													

第五部 教育

(二) 類委員會ノ組織

第二十八類 教育

類 長(佛 國)

次 長(同)

次 長(和 蘭)

報告者(佛 國)

ド ル オ 氏
ク ニ ユ 氏
ダヴリユー、ヴァンデル、ブルイム氏
エリツク、バツジユ氏

正 委員 佛國四名、日本一名(棚橋源太郎)、波蘭二名、アルゼリー一名、リユクサンブルク一名、チエツコスロヴァク一名、和蘭一名、ユーゴースラビー一名、瑞西一名、露國二名、白耳義一名、埃地利一名、計十七名

副 委員 佛國六名、日本二名、森田龜之輔、榎谷茂一郎、瑞西一名、波蘭一名、露國一名、ユーゴースロヴァク一名、計十一名

第三十類 木 材

類 長(佛 國)

次 長(同)

次 長(波 蘭)

報告者(佛 國)

フ レ ツ シ エ 氏

ナ ル ド ル 氏

レ オ ン カ ミ ル 氏

ル ゴ ー ル 氏

正 委員 佛國二名、日本一名(棚橋源太郎)、リユクサンブルグ一名、英國一名、チエツコスロヴァク一名、白耳義一名、計七名

副 委員 佛國三名、日本一名、森田龜之輔、白耳義一名、計五名

第三十一類 金 屬

類 長(佛 國)

次 長(同)

次 長(レトニア)

報告者(佛 國)

正 委員 佛國四名、日本一名(棚橋源太郎)、英國一名、白耳義一名、計七名

副 委員 佛國七名、日本一名、森田龜之輔、計八名

第三十二類 陶 器

類 長(佛 國)

次 長(同)

次 長(希 臘)

報告者(佛 國)

正 委員 英國一名、白耳義一名、計二名

副 委員 佛國三名、計三名

チアルル、グエリノー氏
グラランジエー氏
ローキデス氏
ルフオール氏

ロベール、ピノ氏
ポールベラー氏
ヴェコゾール氏
ロアジール氏

第三十四類 織物

類 長(佛國)
 次 長(同)
 次 長(チエツコスロヴァク)
 報告者
 正 委員 佛國四名、日本一名(棚橋源太郎)、波蘭二名、白耳義一名、モナコ一名、チエツコスロ
 ヴァク一名、ユーゴスラビー一名、英國一名、計十二名
 副 委員 佛國七名、ユーゴスラビー一名、白耳義一名、計九名
 ルキタシナリ氏
 ロルチオア氏
 ステツシ氏
 ルネ、シヤン氏

(二) 各國受賞比較
 第二十八類 教育

國名	オールコ	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日 本	五	一	二	三	四	一	二	一三三
佛 國								三
奧 地 利								
白 耳 義								
英 國								
瑞 士								
日 本								
合 計	五	一	二	三	四	一	二	一〇二六四

第三十類 木材

國名	オールコ	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
和 蘭	五	二	四	三	六	一	三	一九一
波 蘭								五
露 西 亞								
瑞 士								
日 本								
佛 國								
奧 地 利								
白 耳 義								
英 國								
日 本								
合 計	五	二	四	三	六	一	三	一九一

第三十一類 金屬

國名	オールコ	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	褒狀	計
日 本	五	二	一〇	一	一	三		四七
佛 國								
奧 地 利								
白 耳 義								
波 蘭								
瑞 士								
日 本								
佛 國								
奧 地 利								
白 耳 義								
英 國								
日 本								
合 計	五	二	一〇	一	一	三		四七

國	名	オール コ	大 賞	名譽 賞金	賞 銀	賞 銅	賞 狀	計
日	佛蘭地	六	九	三	四〇	二八	一〇	一三五
佛	義利	六	一	三	二	二八	一〇	一三五
白	奧耳	六	一	三	二	二八	一〇	一三五
波	リ ユク サン ブル グ	六	一	三	二	二八	一〇	一三五
合	計	六	一〇	三一	四五	二八	一〇	一四二

第三十二類 陶器

國	名	オール コ	大 賞	名譽 賞金	賞 銀	賞 銅	賞 狀	計
日	佛蘭地	七	一	七	二	一一	一一	一〇
佛	義利	七	一	七	二	一一	一一	一〇
白	奧耳	七	一	七	二	一一	一一	一〇
英	吉	七	一	七	二	一一	一一	一〇
波	蘭	七	一	七	二	一一	一一	一〇
合	計	七	一	七	二	一一	一一	一〇

第三十四類 織物

國	名	オール コ	大 賞	名譽 賞金	賞 銀	賞 銅	賞 狀	計
日	佛蘭地	五	四	一	四	二	二	一
佛	義利	五	一	一	一	二	二	一
白	奧耳	五	一	一	一	二	二	一
西	班牙	五	一	一	一	二	二	一
波	チ エツ コ ス ロ ヴ ア キ ア	五	一	一	一	二	二	一
合	計	五	六	五	二七	一九	四	六七

(三) 出品概評(正委員棚橋源太郎氏報告)

一 概 説

第五部ニ屬スル出品ノ狀況ヲ通觀スルニ、日本以外ノ諸外國ハ概二三乃至四五ノ學校ヨリノ出品ニ止マリ、一國ニシテ七八校ニ出ツルモノ稀ナリ、唯佛國ハ主催地タケニ三四十校ノ多キニ達セリ、佛國ニ次キテ出品學校數ノ多キヲ日本トス、併シナカラ日本ハ出品學校ノ頗ル多キニ拘ラス、一學校ヨリ陶器ノ花瓶一個、船ノ模型一點、校舍ノ寫眞一枚ト云フカ如キモノアリテ、其出品點數並ニ容積極メテ少ク、他列國ノ二三校分或ハ四五校分ノ出品ニモ及ハス、隨テ陳列面積ノ如キモ妄リニ多キヲ要求スル能ハス、列國中狭ナルモノノ一ナリ。

日本教育部ノ出品方法ハ、之レヲ他列國ノモノニ比ヘテ全然ソノ趣ヲ異ニセリ、即チ日本ノ出品カ

一國本位ナルニ對シテ他列國ノ出品ハ大概一學校單位ニシテ同一學校ヨリ模型寫眞繪畫圖案織物陶器硝子金屬及ヒ木材ノ製品等諸方面ニ亘ツテ出品セラレ、是等出品ハ當初ヨリソレソレ獨立ノ一室ニ陳列スル計畫ノ下ニ専門ノ教授ニ依テ立案セラレ、生徒ヲシテ製作セシメタルモノニ係カル、故ニ其陳列品ハ壁面裝飾ノ織物懸掛懸額數物並筆筒書棚椅子机ノ如キ家具照明具裝飾置物及衣裳ノ類ヨリ成リ調和ヨキ一室ヲ成セリ、然ルニ日本諸學校ノ出品ハ出品枚數二十九ノ多キニ達スルニ拘ラス、各學校ヨリノ出品少ナク、概シテ貧弱ヲ免レサルノミナラス、各製品ノ間ニ何等ノ連絡ナキカ故ニ、之レヲ他國ノ纏リタル出品ニ比較セラルル時ハ、外觀ノ貧弱ナルハ勿論、之レニ拂ハレタル教員生徒ノ努力ノ點ニ於テモ到底同日ノ論ニアラス、他列國ヨリノ出品狀況右ノ如クナル故ニ、日本部出品陳列ノ際ニハ同一學校ノ出品物ハ成ルヘク之レヲ一所ニ纏ムルノ方針ニ出テタルモ、既成陳列ケースノ構造、其他ノ事情ニ制セラレテ意ノ如クナラス、止ムヲ得ス一部分ハ壁面ニ殘部ハ之レヲケース内ニ別々ニ陳列セサルヲ得サリシモノモアリテ、其結果今回ノ審査ニ際シ不便ヲ感シタル點少ナカラス、一層不利ヲ招キタルノ感ナキ能ハス。

事情右ノ通りニツキ、列國審査員現場臨檢ノ際ニハ、先ツ以テ文部省出品ノ學校系統圖並ニ實業學校分布地圖等ニツキテ、日本教育部出品ノ目的ヲ説明シ、日本ハ此ノ機會ニ於テ全國工藝教育ノ全系統ヲ示シ、其ノ最近ニ於ケル進歩ノ狀況ヲ海外ニ紹介セントスルニアリタルカ故ニ、他列國ノ如ク少數優秀ノ學校ノミニ止ラス、普ク全國ニ亘リテ各程度ノ代表的學校ヲ指定シ出品セシメタルモノナリ、而シテ地理ノ關係上輸送ニ少ナカラサル困難ヲ感シタルヲ以テ、各學校ヨリノ出品ハ出

來ルタケ之レヲ制限シテ、少數代表的ノモノノミニ止メシメタル次第ヲ述ヘテ、列國審査員ノ了解ヲ得ルニ力メタリ。

本部ノ日本出品ハ、各類ヲ通シテ出品者三十、出品總點數二百二十三トス、今回國際審査ニ臨ムニ際シ、日本ハ豫メ之レカ準備トシテ內國の審査員會ヲ組織シテ下審査ヲ行ヘリ、此ノ第一次審査ニ於ケル本部ノ擔任者ハ主査棚橋源太郎、副査東京美術學校教授森田龜之助、日本産業協會主事佐々木綱雄ノ三氏ニシテ、此ノ擔任者ニ於テ一應ノ審査ヲ了シ、擬賞案ヲ審査委員總會ニ提出シテ決定シタルモノハ名譽賞三、金牌一〇、銀牌七、銅牌二、褒狀三ナリキ。

斯クテ右下審査案ノ通過ニ大ニ努力スル所アラントスルノ決心ヲ以テ國際審査ニ臨ム事トセリ、國際審査ニ於テハ主任棚橋源太郎、副主任森田龜之助ノ兩氏日本ヲ代表シ、同審査ニ於テハ後ニ述フルカ如キ種々ノ事情アリテ悉ク日本ノ提案ヲ容レシムル能ハス、同審査ニ於テ擬賞セラレタルモノ大賞一、名譽賞二、金牌六、銀牌三、褒狀二トス、尙右ノ外ニ於テ金賞一ヲ第二十八類ノ愛知縣立窯業學校外九校ノ出品ニ對シ、又銀牌一ヲ第三十四類ノ東京市立番町尋常小學校外十校ノ出品ニ對シ、總括的ニ擬賞セラレタリ。

二 審査概況

本部ノ日本出品審査ノ狀況ヲ概説スレハ、木工、金工及陶器ノ三類ハ出品者比較的少ク、且ツ列國審査員ニ於テハ幸ニ本邦出品ノ趣旨ヲ充分理解シタルカタメ、擬賞ニ際シテハ日本審査員ノ希望ヲ容レテ寧ろ好成績ノ方ナリキ、之レニ反シテ織物類ニ於テハ出品者二十二校ノ多キニ拘ラス、各學

校ヨリノ出品ハ一點乃至數點ノモノニシテ、他國ノ出品ニ比シテ頗ル貧弱ヲ免レサリシタメ、日本側審査員ニ於テ努力之レカ説明ニ力メタルモ、列國審査員ヲ説得スルニ至ラス、擬賞ニ際シ日本委員ノ希望ヲ十分ニ貫徹シ能ハサリシ事ハ頗ル遺憾トス。

更ニ各類ニ就キ審査ノ經過ヲ略述スヘシ。
第三十類木工品ノ審査ニ際シテハ列國審査員モ本邦側ノ説明ヲ諒トシ、製作品簡々ニツキ親シク點檢シテ往々贊辭ヲ呈シ、就中富山縣立工藝學校ノ出品ニ係ル漆塗リ硯箱ノ如キハ最優秀ノ作品ナリトシテ激賞シ、現場ニ於テ委員長ノ提議ニ基キ、之レニ擬スルニ大賞牌ヲ以テシ、且ツ同校長ニ名譽賞狀ヲ贈ルコトニ全員一致ヲ以テ決定セリ。

東京市立番町尋常小學校出品ノ木工製作品モ亦頗ル好評ニシテ、名譽賞牌ヲ擬セラレ、且ツ同校長ノ努力ニ對シテ名譽賞狀ヲ贈ルコトニ決定セリ、漆器ノ頗ル好評ナリシニ反シ、名古屋市立工藝學校出品ノシエラツク仕上ケノ衣服箆等ハ頗ル不評判ナリキ、列國ノ審査員ハ其ノ意匠並ニ製作技巧ヲ頗ル幼稚ナリトシ、就中シエルラツクノ使用ニ就テハ拙劣見ルニ堪ヘサルコトヲ極言シ、擬スルニ銀牌ヲ以テセリ。

第三十二類ノ陶器ノ審査ニ際シテハ、列國審査員ハ豫テ日本ノ出品ニ對シテ多大ノ期待ヲ有セシニ關ラス、今回日本ヲ代表セラレ居ル學校ノ所在地カ東京大阪ノ如キ大都會ニアラスシテ一地方ニ偏在セル事並ニ其ノ代表ノ出品カ僅ニ一點ノ花瓶ニ過キサリシ事實ハ彼等ノ頗ル意外トシ、物足ラス感セシ所ナリシヲ、日本委員カ極力辨明ニ力メタルト、製作品ノ上出來ナリシトニヨリ本邦

審査員ノ希望ヲ容レテ擬スルニ名譽牌ヲ以テセリ。

各類ノ出品中私ノ最モ遺憾トセシハ、第二十八類一般教育ニ關スルモノトス、同類ノ列國審査員一行ハ日本教育部出品ノ全體ヲ巡覽シテ學校設備及教授方法ノ見地ヨリ之レヲ平凡ナリトシ、本校多數ノ出品中一ノ嶄新ニシテ獨創ニ屬スルモノヲ發見シ得サルコトヲ遺憾トセリ、其ノ結果擬賞會議ノ席上審査長ノ非常ナル同情ヲ以テ、日本出品ノ全體ヲ一括シ之レニ對シテ名譽賞牌ヲ擬セシ事ヲ提議セラレタルモ、之レニ贊成スルモノ唯一名ノミニシテ成立セス、大多數ヲ以テ金牌ヲ擬スル事ニ決定セラレタリ、右ノ決定ニ對シ日本審査員ノ意見ヲ徵セラレシモ事實金牌以上ニ該當スルモノナキタメ遺憾ナカラ其ノ決定ヲ甘ンセサルヲ得サリキ。

實ハ今回ノ教育部ノ出品ニ關シテハ一通ノ出品目錄以外ニハ一行ノ解説書モ附セラレサリシタメ、説明上不便ヲ感セシノミナラス、之レカ審査モ全然陳列品ノミニ依ルノ外ナカリシ事ハ吾々ノ頗ル遺憾トスル所ナリ、又出品ソノ物ニ就テモ學校設備ニ關スル出品ノ如キハ、各程度ノ數校ヨリ一枚乃至二三枚ツツノ寫眞ヲ出品シ居ルニ止マリ、一ノ模型又ハ設計圖ヲモ見ス、而シテ此等ノ寫眞ニ現ハレタル處ノミニテハ圖畫手工及工藝ニ關スル教授設備トシテ何等嶄新ノ工夫ヲ認ムル能ハス、又兒童生徒ノ製作品ニ就キテ之レヲ見ルモ同様ニシテ、其ノ教授方法上ニ嶄新又ハ獨創ト認ム可キモノ一モ存セス、之レヲ他列國出品ノ新ラシ味ニ富ミ頗ル研究的ナルモノニ比ヘテ大ニ遜色ナキ能ハス、前記ノ決定ニ對シテ日本委員カ異議ヲ唱ヘ又ハ再審査ヲ要求スル等ノ措置ニ出テサリシハ、全ク右ノ次第ニシテ、若シ之レヲ試ムルモ類審査ニ於テハ到底成功ノ見込ナキ事ヲ看

做シタレハナリ。

私ハ以上述ヘシ如ク各類ノ公正ナル審査ニ對シテハ固ヨリ大體満足ノ意ヲ表スルモノナリ、然レトモ日本教育部全體トシテ之レヲ視ル時ハ必スシモ然ラス、第五部ノ審査ハ各類間ニ於テ擬賞上寬嚴ノ差多キニ過キテ統一ヲ缺ケリ、其結果受賞者タル各學校ノ間ニハ非常ナル幸不幸アリテ公平ヲ失スルノ嫌アリ、更ニ今一ツノ遺憾ハ日本部出品ニ對シ總括的擬賞ノ多カリシ事ナリ、學校ノ種類及ヒ程度ヲ異ニシ且全國ニ亙リ各地ニ散在セルモノニ對シテ總括的ニ擬賞スル事ハ獎勵上ニ效果極メテ少ナク其ノ當ヲ得タルモノニアラス、故ニ部審査委員會ニ於テハ特ニ第二十八類及ヒ第三十四類ノ擬賞(金牌以下)ヲ修正アラン事ヲ希望シ、部委員會ニ此ノ修正案ヲ提出シテ、辛シテ別表ノ如キ決定ヲ見タル次第ナリ。

第五部 各類府縣別受賞表

第二十八類 教育

府	縣	大	賞	名譽賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
東	京												二
大	阪												一
合	計												三

第三十類 木材

府	縣	大	賞	名譽賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
東	京												二
富	山												二
合	計												四

第三十一類 金屬

府	縣	大	賞	名譽賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
京	都												一
愛	知												一
合	計												二

第三十二類 陶器

府	縣	大	賞	名譽賞	金	賞	銀	賞	銅	賞	褒	狀	計
石	川												一
合	計												一

第三十四類 織物

府	東京	大阪	京都	神戶	群馬	合計
ノ ク ル コ						
大						
賞						
名譽賞						
金						
賞	二	一	一	一	四	
銀						
賞	三	一	一	一	五	
銅						
賞	一	一	一	一	二	
褒						
狀						
計	六	二	一	一	一	一

昭和二年三月廿五日印刷
昭和二年三月廿八日發行

商工省商務局

東京市京橋區木挽町一丁目十四番地
印刷者 石井精一郎
東京市京橋區木挽町一丁目十四番地
印刷所 安信舎印刷所
電話京橋二四九四番

終